平成 23 年度科学技術人材育成費　女性研究者支援モデル育成

大阪府立大学「元気！ 活き生き女性研究者・公立大学モデル」

平成23年度 事業報告書

元気！活き生き
女性研究者・公立大学モデル

平成 24 年 3 月

公立大学法人大阪府立大学　女性研究者支援センター

女性研究者支援事業　2年めの抱負と課題

公立大学法人大阪府立大学　理事長・学長　奥 野 武 俊

「高度研究型大学―世界に翔く地域の信頼拠点―」という理念を掲げ、大阪府立大学は平成24年度に「創基130周年」を迎えます。本学は歴史ある理系の研究・教育の伝統をもち、その後さまざまな専門分野の高等教育機関と統合しながら、成長してきました。さらに、女性研究者支援事業の2年めとなる平成23年度には、教員の研究組織を変革し、理系の研究をさらに活性化する仕組みをつくりました。また、平成24年度からは教育組織も大きく改革し、文理融合の基盤のもと、理系教育を強化し、より優れた教育を目的としています。

このような大学改革の流れのなかで、本学がめざすところは高く、課題は数多くあります。女性研究者の数と比率を増加することができないことは、その一つです。しかし、平成23年度は、本学初めての保育園を中百舌鳥キャンパスに開設しました。これは、女性研究者のみならず、男女研究者および男女職員等が利用できる全学的な福利厚生施設であり、本書で後述のアンケート結果にみられるように、学内で大変高い評価を受けています。保育園のことを話題にすると、思わず皆の目が輝く、という経験を学内でしばしばするようになりました。

なぜ大学に保育園なのか、ということを考えるに、子どもたちこそ社会の未来だからではないでしょうか。大学は人を育て、知をはぐくみ、専門知や技術をもって社会と人類に貢献する研究機関です。したがって、私たちは未来を大切にしながら、世界で活躍する研究者や技術者、そして人々を育て、世界に通用する知と技術を発信していかねばならないのです。人を、未来を大切にするということは、あらゆる知の目的かもしれません。そのことを保育園の存在が教えてくれているように思います。

また、平成23年度には、理系女子大学院生チームIRISが結成され、地域で素晴らしい活躍を始めました。本学の理系女性研究者を中心とするロールモデル集も発行されました。本学の才能ある元気な女性たちの存在が、本支援事業によって見えるようになってきました。これによって、本学がさらに活性化されるとともに、地域連携においても良き刺激となり、皆にとって「元気！ 活き生き」という支援事業の目的が達成されることを願っています。

平成24年度は、採択期間の最終年にあたり、本学も高等教育機関としての姿勢が問われることになります。外部評価委員会からいただいた評価、および学内アンケート結果等をしっかりと参考にして、事業の進展にいっそう励む所存です。皆さまのご理解とお力添えを宜しくお願い申し上げます。

平成23年度　事業紹介

女性研究者支援センター長　田　間　泰　子

（1）数値目標

①　理系女性研究者比率

「プラスワン」として、女性教員を採用した理系部局に、各年度に①年額100万円を条件とする人件費の支給（事務補助員等を雇用可。性別を問わない）、あるいは②助教の雇用（任期5年間。性別を問わない）のいずれかを一度申請できる制度を、大学自主経費により導入した。それにより、工学研究科は平成23年度の採用実績によってプラスワンを2件利用した。しかし、平成24年度には、厳しい定員削減計画や組織改変という事情がある。

平成23年5月時点での研究者全体における女性研究者比率、職階別比率、および理系部局における職階別比率は、表1のとおりである（任期付教員を含む）。全学的および理系において、申請時点（平成21年5月）よりも若干比率が下がった（19.4%⇒19.0%、6.0%⇒5.6%）。

ただし、実数をみると申請時点からの改善点も僅かながらみられる。参考までに、表1最下行に申請時（平成21年度）の数値を記載した。教授と助教において女性が増えている。さらに教授職が増加すること、および助教職の女性研究者が本学で昇進定着することが課題である。

表1　本学における女性教員数および比率

（平成23年5月1日現在。上段は実数、下段は%。「理系」には、理系3研究科・高等教育推進機構の理系教員・21世紀科学研究機構の理系教員を含む。）

	教　授		准教授		講　師		助　教		助　手		総　数	
	計	女性	計	女性	計	女性	計	女性	計	女性	合計	女性
全学	278	38 13.7%	240	48 20.0%	52	13 25.0%	157	38 24.2%	1	1 100%	728	138 19.0%
理系	164	5 2.7%	136	9 6.6%	23	1 5.3%	129	16 10.3%	2	0 0%	454	30 5.6%
参考	159	3 1.9%	135	10 7.4%	42	2 4.8%	112	12 10.7%	0	0 0%	448	27 6.0%

いずれにせよ、このままでは、採択期間終了の時点での数値目標の達成は不可能である。この制度が、女性研究者の増加を促進するのに効果的かどうか、また本学の今後の教員採用のキャパシティを正確に把握して他の方策を立案すべきか、もう少し経過をみつつも検討すべきであろう。外部評価委員会からの指摘にもあるように、本学の事情を踏まえつつ、今後どのような対策を行うかについて、さまざまな数値の把握とともに、大学執行部において、また部局ごとの課題の認識等、方針を明確にする必要があると考えられる。

②　博士後期課程を修了する理系女子大学院生比率

平成22年度の修了大学院生における女性比率を算出しようとしたが、担当課では性別を把握していなかったため、困難な状況となった。これについては、学生課との連携により平成24年度に集計可能にしたい。

在籍者に関しては、ジェンダー統計が存在する。それによると、大学院生の在籍率が専攻分野によって非常にばらつきがあり、一律に評価することができない（表 2）。ただし、生命環境科学研究科では相対的に高く（31.0%）、特に工学研究科で低い（7.5%）。また、学年別の数値をみると、在学者における女性比率は年々増加している（最も比率の低い工学研究科博士前期課程で 6.1%⇒8.9%、理系 3 研究科博士前期課程合計で 12.3%⇒ 14.5%）。2 月の運営委員会では、これら数値を検討した結果、即座に数値目標を達成することは困難だが、裾野拡大、大学院および入学者における女性比率を高めるよう取組むべきだという結論になった。その方法として、2 月の運営委員会では、企業との連携を強める意味でも、特に比率の低い研究科において社会人女性大学院生の入学を促進してはどうかという提案があった。他に、下記（2）③に述べる。

表 2　大学院女性在籍比率

（N は男女総数、(　)は女性数、他の数値は%。平成23年 5 月現在）

研究科女子学生現員	博士前期課程(N ＝1037)			博士後期課程(N ＝217) (獣医学専攻博士課程 1 ～ 4 年を含む)					合計
	1 年	2 年	計	1 年	2 年	3 年	4 年	計	
工　学　研　究　科	10.3	6.1	7.5	2.4	5.9	18.5	—	7.8	7.5 (59名)
生命環境科学研究科	32.9	31.0	32.0	42.9	8.3	33.3	—	26.5	31.0 (63名)
生命環境科学研究科獣医学専攻	—	—	—	46.2	50.0	37.5	23.8	35.4	35.4 (17名)
理　学　系　研　究　科	19.1	17.7	18.4	14.3	50.0	58.3	—	38.2	21.5 (47名)
旧　　院（N ＝ 6 ）	—	—	—	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0
合　　計	22.1	21.4	21.8 (291名)	31.8	37.0	54.6	20.0	41.9 (162名)	26.3 (453名)

（2）元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル

①　女性研究者支援のための環境整備

1）運営体制

全学ステアリング委員会については、採択機関終了後に他の人材育成プロジェクトと統合する予定であったが、予定を早めて今年度から組織統合し開催した。

運営委員会の定期開催のほか、特に年度初めに、前年度に残された課題の多かった理系部局について、理系部会を開催し、担当委員の分担を行なってより円滑に事業実施できるよう配慮した。また、理系部局からの委員を前年度の 1 名から 2 名に増やした。以上によって、大学院生表彰制度や情報サポート基盤整備、女性研究者の学内ネットワーク構築、オープンキャンパス等の分担がなされ、各委員を中心に事業実施できた。しかし、ロールモデル・セミナーについては、各理系部局委員からの提案を依頼したがなかなか出されず、結局、女性研究者支援センター（以下、「支援センター」という）が企画したセミナーのほかは、研究科長にも依頼することによって一件、表彰制度で 1 位となった大学院生からの希望一件（国際交流推進機構との共催事業として実施）となった。この反省から、他大学の例を調べて運営委員会で検討し、来年度は年度初めに運営委員と理系女子大学院生チーム IRIS（アイリス）（後述、以下「IRIS」という）からの提案、そのあと予定枠に空きがあれば学内公募のうえ決定することとした。これにより、セミナー開催が確実な期日で進行し、また広く本事業の企画に参加を呼びかけることができると考える。

支援センターの運営は、年度途中で雇用体制を幾分強化しつつ、ロールモデル・バンクの運営、相談窓口（支援センター相談・女性の健康相談）の運営、在宅勤務支援（web カメラ付き PC の貸与）、研究支援員の配置、女性研究者 SNS の運営、ニューズレターの発行、ホームページの運営等により環境整備を行った。

以上のステアリング委員会・運営委員会・支援センターの運営について、外部評価委員会からは概して A および B の評価を受けている（一部 S および C）。ステアリング委員会の統合はプラスの評価を受けたが、その効果については疑問が出されているため、平成 24 年度にはこの統合を生かし、大学トップの意思決定機能を発揮することが必要と考えられる。C の項目については、積極的に部局長・課長等にヒアリングを行う等、量と質の両面で改善することとする。

研究支援員の配置は、新規採用の理系女性研究者へのヒアリングを春期に行った結果のほか、昨年度末に募集した希望者に対し、審査のうえ配置し、理系女性研究者で対象となる資格のある研究者全員（7 名）に配置できている。その効果に関する報告書は年度終了後に提出される予定である。外部評価委員会による評価においては、研究支援員と web カメラの利用による成果の報告が未添付であったため、B 評価に留まった。これらについては、今後しっかりと、その効果判定のための資料を収集することとする。

ロールモデル・バンクは学内の女性研究者やロールモデル・セミナー講師への登録呼びかけにより若干増加したが、その活用は困難であった。困難であった理由は、支援センターからの企画参加の呼びかけに対して、多忙等により対応していただけなかったことが大きい。そのような状況を踏まえたうえで、活用できる方法を見つける必要があり、来年度の課題とする。

ホームページについては、大学 HP からのアクセスが悪く、担当課に申し入れたが改善されなかった。今後は更にアクセスしやすいよう、一層の工夫が必要である。

運営委員およびステアリング委員に対しては、支援センターから毎月、メール通信によって翌月の行事予定や他大学の企画を周知することとした（全学教職員に対しては、昨年度より既に、企画によって、メールの一斉送信を行っている）。それによって、本事業の中核となっている人々にも、より理解を深め企画に加わってもらいたいと考える。

その他、今年度は事務担当者を中心にして、他大学に出張し優れた事例を学んでもらったが、来年度には運営委員にも他大学の事例を学んでもらいたい旨、2 月の運営委員会で周知した。

② 全学的意識改革事業

女性研究者支援に対する理解の促進とワークライフバランス文化の醸成のために、ワークライフバランスについての公開セミナー等の実施、ガイダンスや授業での学生への本事業概要説明、子育て応援ピンバッジ・シール・キャンペーン、総務人事課との連携により、「会議は 17 時まで」キャンペーンなどを行った。また、事業を出来る限り学内のさまざまな部署との連携によって展開するよう工夫しており、それも全学的な意識改革の働きかけの一端となっていると考える。

なお、部局と大学本部への働きかけについては、5 月には理系部局の研究科長・支援室長（研究科事務担当部署）、および理事に、本事業に関する個別説明を行い意思疎通を図ったが、外部評価委員会から指摘されているように、来年度には、さらに積極的な働きかけが必要である。

また、課題として残されたことは、学内セミナーへの学生の参加である。平日に理系の授業を利用することがなかなか同意されえず、少数の理系教員の協力によって、授業を利用させていただくことにより、学生の参加をかろうじて得ている。これを踏まえ、来年度のセミナーの一つは、現代システム科学域という新しい教育組織（学部に相当）の 1 年生科目で、一コマを利用させていただ

いてロールモデル・セミナーを開催することを決定した。教員の参加についても、外部評価委員会から問題として指摘されているように課題が残る。

これらに関して、来年度は最終年度であるため、公開シンポジウム実行委員会を広く教職員に呼びかけ、その企画実施によって一層の意識改革を図ることが運営委員会で合意された。

なお、1 月に行った学内アンケートを意識啓発に利用するため、その最終面に本事業および関連施策の用語解説を入れ、全常勤教員・常勤職員・非常勤職員・大学院生に配布した（有効回答票 1108、回収率 32.9%）。アンケート結果をみると、回答者については女性職員と男性理系大学院生が多い。特に女性職員は、配布対象者のほぼ全数が回答するという高率となり、本事業が関心をもたれていることが伺われる。女性研究者については、全体で 41.0%、理系で 62.0%、文系で 32.1%の回答率であった。男性研究者については、全体で 17.5%、理系で 30.4%、文系で 31.6%の回答率となった。本学で、この支援事業の対象が理系女性研究者を中心としていることから、男性研究者と文系女性研究者における関心が低くなっていると推測され、今後の課題となった。また、大学院生への周知についても、工学研究科以外については回答者率が低く、他方、工学研究科の回答者においてはさまざまな認知度の低さが明らかで、今後の課題として残された。

事業の認知については、昨年度のアンケート結果と比較すると、全体的に増加していると評価できる（支援センター：昨年度 46.3%⇒今年度 73.9%）。女性の健康窓口は、利用実数はそれほど多いものではないが（後述）、女性教職員にはその存在はかなり知られてきている（後述アンケート結果を参照）。

しかし、文部科学省の科学技術基本計画や女性研究者支援システム改革事業、本学の「多様な人材活用の基本方針」について「知らなかった」と多数回答されている（「方針」昨年度 84.9%⇒今年度 80.5%）。そのような未認知層にはこのアンケートが啓発効果をもち、来年度のアンケート結果に反映されることを期待するとともに一層の周知の工夫を検討しなければならない。また、来年度アンケートでは、男女共同参画や女性研究者支援自体についての意識調査項目も入れて、意識改革の状況をみる予定である。

③ キャリアパスの構築と裾野拡大

著名な理系女性研究者をロールモデルとして招聘し、ロールモデル・セミナーを開催した。また、ロールモデルとの交流の場としてサイエンスカフェを開催し、理系女子学生向けのキャリアパスに関する相談の場を充実させた。学内の女性研究者と、上記ロールモデル・セミナーで招聘した講師と学内の理系女性研究者を中心にしたロールモデル集は第 1 集を 1 月に刊行し、学内外に配布している。このロールモデル集は学内外で好評で、1 月下旬に堺市と共催した企画においても多数配布することができ、学内広報課からの提案によって大学ウェブサイトから閲覧できるよう準備中である。今後も、本事業の趣旨の周知や、女性のキャリアパス構築に役立つと推測される。

メンター制度は、マッチングが難しいため、メンターの実績をもつ講師によってセミナーを開催することを企画した。しかし、これに取り掛かることが遅く、今年度内の開催には間に合わなかった。来年度にはまずセミナー開催を実現する。ただし、理系女性研究者だけのメンター制度を採択期間終了後に構築することは運営委員会でも合意が難しい。そのため、平成 25 年度から他プロジェクトと統合して行う多様な人材育成のシステム内で、女性に限らず若手にメンター制度を導入することが可能かどうか、来年度に検討することとなった。この点については、予定よりかなりの遅れがあり、外部評価委員会からも明確に指摘されている。

大学院生のキャリアパス構築については、7 月から IRIS を組織化し、大阪府や堺市等と連携して

府内の小中高校等への講師派遣、本学キャンパス内で子どもサイエンスキャンパス等を、自主的に企画・実施した。応募・審査のうえ任命されたメンバーは、本学理系女子大学院生の3.7%に相当する17名である。12月にはメンバー同士の研究交流会、1月からはメンバーによる自主的懇話会がもたれており、3月には活動報告集の刊行や学内教員を講評者とする報告会開催等、非常に活発に活動している。そのため、第二期メンバーの公募を、在学生のいる3月から新規入学者のある4月にかけて公募することとした。

これらの事業を通して、女子大学院生のキャリアパスを構築し、地域の自治体等の施策を活用した連携を構築することにより、女性研究者のロールモデルを学内外に示す仕組みを確立するとともに、裾野拡大を図っている。ただし、今後の活躍によってメンバーの活動が大学院生としての研究生活に支障を来たさないよう十分に注意しておく必要があると考え、申し合わせを作成することを検討中である。

前後するが、下記⑦の表彰制度への関心を踏まえて、3月に国際学会用の英語投稿論文作成のためのセミナーを開催した。申込締切日前に既に定員を超え、その三分の一ほどが女性である。本学教員・大学院生の女性比率（研究者18.4%、理系大学院生14.5%）を考慮すれば、女性比率は高い。

④　サポート基盤の整備

本事業の実現に必要な情報化サポート体制等を整備した。具体的には、上記①の支援センター相談窓口に寄せられる案件のうち、自宅からwebカメラによって学生の教育指導・研究実験の継続・会議参加等の要望があるものについて、webカメラ付専用パソコンの一定期間の貸与・セキュリティ管理等のサポートを行った。また、女性研究者を中心として、大学院生、本事業の趣旨に賛同する教職員が参加可能な学内SNSを3月に始動させた。

その他、企画実施にあたっては、できるだけ学内の他部局と連携するように努め、それによって本事業の浸透を図った。

また、学外においては他大学との交流および情報共有等を積極的に行い、本事業の改善に役立てた。他大学の例が役立った企画は、ロールモデル・セミナー、ロールモデル集の発行、IRISの組織化、実施体制における人事担当課の関わり方、数値目標の達成方法について、メンター制度、国際学会用英語論文セミナー、「会議は17時まで」キャンペーン、来年度の公開シンポジウム実行委員会方式、事業終了後の事業内容の精査について等である。

⑤　地域連携

大阪府や堺市等と連携しネットワーク構築や交流を図る中で、女性研究者の存在をアピールした。また、セミナーの共催等を行い、府民や市民に公開することで地域貢献を図った。これにおいては、特に上記②ロールモデル・セミナーの開催、および③ロールモデル集発行とIRISの活躍があった。しかし、地方自治体との連携はまだ試行的なので、来年度はこれを恒常的な形にすることが課題である。また、本学で長年実施されてきた理系裾野拡大事業があるので、それとIRISの活動を連携することも来年度の課題とする。

企業との連携は、堺市の第3セクターである起業家支援施設S-CUBEとの交流を実現したが、企業そのものとの連携はできなかった。これは、外部評価委員会からも指摘されているように、来年度の大きな課題として残されている。本学の申請内容の柱の一つが地域連携であったことから、特にこの課題は重要である。外部評価委員会からも、厳しい評価が与えられた。平成24年度には、本

学の地域連携研究機構のもつ産学官のネットワークを活用することを考える。

同窓会との連携は、進展することができなかった。これも来年度の課題とする。

その他の地域連携については、3 月に大阪大学と連携セミナーを行い、今後の大阪地域での連携の可能性の端緒とした。また、平成 23 年度に採択された首都大学東京および名古屋市立大学とは公立大学として連携し、平成 24 年度にシンポジウムを共催することを検討する。

⑥　保育施設の設置と運営（補助対象外事業）

学内保育園として、学内保育施設「つばさ保育園」を当初の予定どおり 4 月に開設した。2 月現在で、定員 10 名のところ 5 名の通常保育入園者（来年度 4 月には 7 名となる予定）、11 名の一時保育登録者がある。当初予定よりも 0 歳児保育が多いため、年度内に内部の一部改装等を行い、大学経費の見直しも行って、申込者を受け容れる体制を整えた。保育園は、学内アンケートでも引き続き認知度が高く（昨年度 72.4%⇒今年度 83.0%）、また支援事業を実施している他大学から来訪者の見学も多いことから（韓国梨花女子大学、岩手大学、東京理科大学、首都大学東京等）、全学的なシステム改革のシンボル的存在となっていることが推測される。

⑦　インセンティブ制度（補助対象外事業）

優秀理系女子学生に対する国際学会参加支援のインセンティブ「世界に翔け！理系女子大学院生表彰制度」を昨年度に引き続き実施した。受賞した大学院生、およびこれを利用して国際学会に参加した大学院生についての情報は、ニューズレターで随時掲載している。この制度は、学内アンケートによると認知度が低いものの、昨年度より若干知られるようになっている。運営委員や参加教員による評価は高く、これを男子大学院生に広げたいという意見や、文系大学院生に広げたいという意見も出ている。課題としては、キャリアパス構築のモデルとするため、最終審査である公開審査会に学部生がもっと多く参加することが必要である。開催日時等を工夫しているが、なかなか参加が増えない。教員がゼミ学生を連れてくるなどの工夫が必要かもしれない。来年度には検討が必要である。

（3）最後に

2 月に行ったアンケート調査においては、採択期間終了後の事業の方向性を決める参考にするため、全学的に支援のニーズを尋ねた。その結果、事業目的の認知度に課題が残るものの、研究者支援については、より幅広い支援が回答者から支持されていることが分かった。この結果を参考にして、今後の方針を討議することが最終年度の重要課題である。

以　上

平成 23 年度 事業報告書　目次

ごあいさつ …… 大阪府立大学　理事長・学長　奥野武俊　i

平成 23 年度 事業紹介 …… 女性研究者支援センター長　田間泰子　ii

Ⅰ．事業概要と今年度の計画 …… 1

1．事業概要 …… 2

2．初年度の実績と今年度の実施計画 …… 8

Ⅱ．事業実施報告 …… 9

1．支援のための環境整備 …… 10

2．全学的意識改革事業 …… 25

3．キャリアパスの構築と裾野拡大 …… 34

4．サポート基盤の整備 …… 65

5．地域連携 …… 66

6．保育園設置・運営（補助対象外事業） …… 68

7．インセンティブ制度（補助対象外事業） …… 69

8．プラスワン制度（女性研究者採用促進策）（補助対象外事業） …… 73

9．学内アンケート結果 …… 74

Ⅲ．外部評価 …… 87

外部評価委員会　総評 …… 88

Ⅰ．事業概要と今年度の計画

１．事業概要

平成 22 年度科学技術振興調整費　女性研究者支援モデル育成

「元気！ 活き生き女性研究者・公立大学モデル」

実施予定期間：平成 22 年度～平成 24 年度

総括責任者：奥野　武俊（公立大学法人大阪府立大学　理事長）

【概要】

理系強化・文理融合型大学への改革を機に、理事長を長とするステアリング委員会の下、女性研究者支援センターを設立し全学的に理系女性研究者支援に取り組む。環境整備として相談窓口・メンター制度・保育園を開設し、勤務時間配慮や研究支援員配置等の支援環境を整える。意識改革はカリキュラムや講演会等により全学的に行う。キャリアパス構築のためロールモデル・バンクを構築し、大阪府の施策とも連携させ地域貢献を図るとともに理系選択女子の裾野拡大にも活用する。情報基盤整備にはＩＴ機器を活用する。以上により、全学的に環境と意識を変革し、全学で理系女性研究者を支える体制を整え、公立大学として地域貢献と府の施策活性化も図る。

１．機関の現状

ａ．女性研究者に関する現状及び今後の見通し

本学は、現在、工学、生命環境科学、理学、経済学、人間社会学、看護学及び総合リハビリテーション学の７学部７研究科を擁する総合大学であり、すべての研究科において博士後期課程まで整備され、「高度研究型大学～世界に翔（はばた）く地域の信頼拠点～」を基本理念に掲げ、実学に重心を置いた教育研究体制の充実・強化を図っている。総勢、学部生は 6,255 名、大学院生 1,512 名（平成 21 年５月１日）と大学院重点型大学である。

平成 18 年度～平成 20 年度の３年間における学士課程及び大学院博士前期課程・後期課程を卒業・修了した女子学生の比率は、それぞれ 38.7%（学士課程）及び 26.1%（博士前期課程）、27.7%（博士後期課程）であり、ほぼ国立大学並みの比率である（国立大学平均は 37.4%及び 26.6%、24.6%『国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第５回追跡調査報告書』）。しかし、看護医療系や人文社会学系を卒業（修了）した女子学生の比率は高比率であるが、理系３学部・研究科（工学、生命環境科学、理学）では、いずれも 10%台と低い。

次に、この３年間に本学に在職・新規採用された女性研究者の在職比率及び採用比率をみてみると、いずれの比率も看護医療系分野においてきわめて高率であり、理系分野における女性研究者の在職比率は 6%（27 名）で、新規採用された理系女性研究者は１名のみである。さらに、理系分野については人数・比率ともに少ないだけでなく、職位における偏りがある。特に教授比率は、2%未満（平成 21 年度）と非常に低い。以上から、理系女性研究者の増加と職位の向上が今後の大きな課題であるといえる。

その一方で、新規採用の人数は年度により大きな変動があるが、平成 21 年度に在職する女性研究者比率は約 19%（140 名）で、平成 21 年度の採用 25 名のうち、女性は 10 名で比率は 40%に達している。また、全学の助教・助手における女性研究者比率は 26%（40 名）以上に達しており、また過去３年間の採用女性研究者の平均年齢は 39 歳と若い。以上から、本学の女性研究者において仕事・研究と家族責任の両立支援の必要性が高いと推測される。

現在、本学では、次期中期目標に向けて大幅な大学改革に着手しており、「選択と集中による大学改革」の基本方針の下、理系強化・文理融合への移行が機関決定している。そこでこの改革を好機として、全学的な意識改革と、大阪府の施策と連携した地域貢献に取り組み、その基盤のうえに、特に理系女性研究者への全学的な支援体制を確立することを目指す。

b．女性研究者支援に関する取り組み状況

（1）「大阪府立大学における多様な人材活用推進の基本方針」

本学は、公立大学として地域に信頼される知の拠点となるべき基本理念「高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点～」の実現に向けて「多様」「融合」「国際」の3つの視点の重要性を取り上げている。

これらの視点に基づき、ダイバーシティ（多様性）の実現こそが今後の教育研究の活力の源泉であるとの認識の下、「大阪府立大学における多様な人材活用推進の基本方針」を策定している。

基本方針では、特に、男女共同参画を推進するとともに、女性研究者や若手研究者、外国人研究者を含めた多様な人材がいきいきと活躍できる環境を構築するため、今後、本学構成員の意識改革、環境の整備、支援相談システムの構築などを推進することとしている。本事業は、この基本方針のもとで実施される初めての取り組みとして実施する。

（2）「地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」プログラム

本学は、平成20年度文部科学省科学技術振興調整費「若手研究者の自立的研究環境整備促進事業」に「地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」プログラム（平成20年度～24年度）が採択されている。本拠点は、テニュア・トラック教員13名の採用にあたり、女性研究者の優先枠20%を設けることをミッションステートメントに明確に述べており、現時点で優先枠を超える4名の女性研究者の採用を行っている。この実績のほか、本拠点雇用の女性研究者に対する下記の支援策を策定・実施している。

1）出産等の事由による任用期間延長制度（通常の5年から最長で6年まで延長できる制度）
2）育児のための保育施設サービスの提供（近隣保育施設の利用斡旋など）
3）女性研究者の相談窓口の設置（様々な相談に応じる）
4）学内女性研究者を含むメンター制度（専任特認教授、学内兼担教員）
5）乳幼児（3歳未満）がいる場合、その年齢に応じた支援（研究活動を補助する支援員の配置、複数担当者体制など授業担当への配慮）

（3）女性研究者支援ワーキンググループ

平成22年1月に総務担当理事の下に女性研究者支援ワーキンググループを立ち上げ、人間社会学研究科付置の女性学研究センターと連携し、学内保育室設置等のニーズ調査を行った。対象は全学の教職員および大学院生・研究員2,698人とし、1,092人の回答を得た（うち、教員26.2%、大学院生・研究員40.7%、女性教員・大学院生・研究員135人）。教員・大学院生・研究員（以下、併せて「研究者」とする）の回答の傾向は事務職員のそれと類似し、「あれば良いと思う支援」および「あれば利用したい支援」として、勤務時間の配慮、仕事・研究と家族責任の両立支援のための相談窓口、在宅勤務・補助員雇用と、学内保育に希望が多いことが明らかとなった。

この調査では回答者には男性が多いことから、女性だけでなく多くの男性研究者もそれらの支援を希望していることが図らずも判明した。また、性別による差をみたところ、女性大学院生・研究員が男性に比してメンター制度を明らかに多く希望していることが判明した。以上から、全学的に男女研究者および職員に対する支援体制を整えつつ、その基盤のうえに理系女性研究者への支援を展開することが、大学全体で彼女た

ちを支え世界に翔く理系女性研究者モデルを育成することにつながると考える。

（4）人間社会学研究科女性学研究センター

女性学研究センターは、平成 8 年に大阪女子大学に設置され平成 17 年に大阪府立大学に統合された現在も、大阪府男女共同参画推進条例にもとづき研究機関として男女共同参画を推進する役割を与えられている。学部・大学院における女性学・ジェンダー論教育を担当し、講演会・セミナーや研究者対象のコロキウムを行い紀要等を刊行するとともに、海外の諸大学との協定の締結やシンポジウム等の開催など、学内外の意識啓発と国内外のネットワーク形成を推進してきた。また、大阪府や企業と連携して雇用の多様性推進とワークライフバランス支援を行ってきた。さらに、平成 22 年度には奥野武俊本学理事長および稲葉カヨ京都大学女性研究者支援センター長を講師として、本学の理系女性研究者支援の取組に関する講演会・セミナーを開催した。国内外の大学・行政・企業等にネットワークをもつ研究機関として、主に意識啓発の側面から、学内外において理系女性研究者への支援と仕事・研究と家族責任の両立支援に取り組んでいるところである。

2．計画構想の内容

取組の実施にあたっては、理事長を長とする女性研究者支援システム改革ステアリング委員会が全学的責任を負い、そのもとに企画・調整・運営管理を行う女性研究者支援センターを設立する。センターには、センター長（統括)、コーディネーター（相談窓口および統括補佐)、事務員、および全学から選ばれた運営委員による運営委員会を置き、重点的に 1）支援のための環境整備、2）全学的意識改革、3）キャリアパスの確立、4）サポート基盤の整備の 4 つの柱で取組を実施する。以上の取組に対して、センターの外部に有識者による評価委員会を設置し、単年度ごとに取組の評価を行う。この評価は公開し、センターは評価に基づいて改善を行う。

3．実施期間終了時における具体的な目標

a. 事業終了までの 3 年間で理系女性研究者数を平成 21 年度の 30%アップを目指す
b. 理系博士課程を修了する女性大学院生数の比率を 25%まで引き上げる
c. 若手女性研究者のためのメンター制度の創設
d. 相談窓口の開設
e. 出産・育児等の問題に直面した理系女性研究者のための研究支援員の配置
f. 学内外の理系女性研究者・技術者ネットワークの構築
g. ロールモデル・バンクの構築と活用による地域貢献

4．実施期間終了後の取組

a.「大阪府立大学における多様な人材活用推進の基本方針」のもと、多様な人材活用推進担当者を配置し、包括的支援体制としての強化・充実を図る。
b. 学内外の評価システムを活かして支援体制を改善し、さらなる支援を行う。

5．期待される波及効果

a. 全学的な改革による、理系女性研究者の研究水準の向上とそれを支える本学構成員の意識変革。
b. 大阪府の施策の活用を通して地域に貢献することによる理系女性研究者のロールモデルの普及。

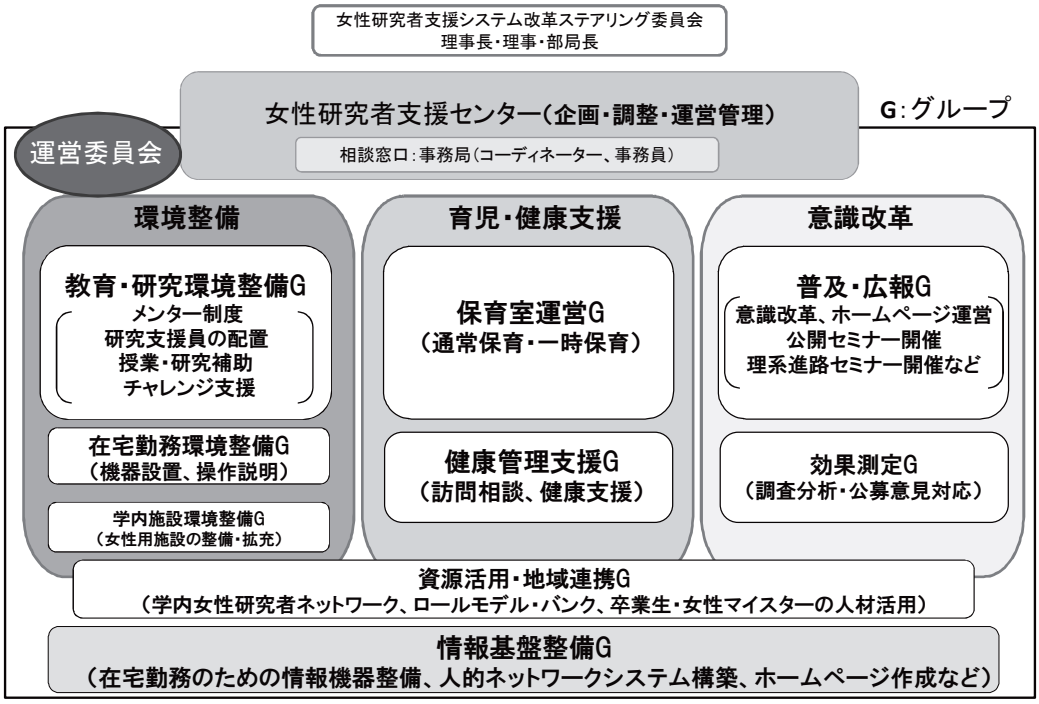
6．実施体制

理事長を長とする女性研究者支援システム改革ステアリング委員会が全学的統括を行い、そのもとに女性研究者支援センターを設立し、ここで企画・調整・運営管理を行う。センターには、センター長（統括）、事務局（コーディネーター、事務員）と、全学から選ばれた運営委員による運営委員会を置く。

運営委員会はセンター長のもと、運営委員および事務局によって構成され、取組について協議しその結果を女性研究者支援システム改革ステアリング委員会に報告する。運営委員は下記の取組を重点的に担当する各グループのグループ長が務める。

各グループは、学内外の関連部署と連携して諸事業に取組むとともに、その結果及び事後評価を運営委員会に報告する義務を負う。事務局を担当するコーディネーターは、センターの包括的な実施運営を事務的に管掌するほか、相談窓口を担当し、さまざまな問い合わせを受け、適切な支援をアレンジするとともに、そこから得られた情報がその後の支援体制の改善に反映されるよう、運営委員会に報告する義務を負う。

運営委員会で承認された取組に対して、センターの外部に有識者による評価委員会を設置し、単年度ごとに取組の評価を行う。この評価は公開し、センターは評価に基づいて改善を行う。



ステアリング委員会　委員名簿（平成 24 年 3 月現在）

＊委員長

氏　名	職　　名（部局）
奥 野　武 俊＊	理事長・学長
安　保　正　一	理事（教育研究担当）、副学長、地域連携研究機構長、学術情報センター長、21世紀科学研究機構長
正　木　　裕	理事（総務調整担当）
辻　田　正　人	理事（経営企画担当）
今　井　良　彦	理事（広報渉外担当）
長　澤　啓　行	理事（高専担当）
池　田　良　穂	工学研究科長・工学部長
小　崎　俊　司	生命環境科学研究科長・生命環境科学部長
前　川　寛　和	理学系研究科長・理学部長
山　本　浩　二	経済学研究科長・経済学部長
萩　原　弘　子	人間社会学研究科長・人間社会学部長
高見沢　恵美子	看護学研究科長・看護学部長
高　畑　進　一	総合リハビリテーション学副研究科長・総合リハビリテーション副学部長
高　橋　哲　也	高等教育推進機構長、副学長
寺　迫　正　廣	国際交流推進機構長、副学長
竹　内　正　吉	学生センター長、副学長
吉　田　敦　彦	第 1 学群長
林　　英　雄	第 2 学群長
高　辻　功　一	第 3 学群長
奥　田　修　一	第 4 学群長

運営委員会　委員名簿（平成 24 年 3 月現在）

氏　名	部　　局（職名）	担 当 事 業
田　間　泰　子	女性研究者支援センター（センター長） 人間社会学部（教授）	運営委員長 実施責任者
伊　田　久美子	人間社会学部（教授） 女性学研究センター（センター長）	副運営委員長 意識改革啓蒙活動担当
真　嶋　由貴恵	高等教育推進機構（教授）	在宅勤務環境整備・情報化サポート体制担当
細　越　裕　子	理学系研究科（教授）	理系部会担当（オープンキャンパスほか）
江　副　日出夫	理学系研究科（講師）	理系部会担当（大学院生チームほか）
石　田　武　和	工学研究科（教授） 「地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」PO	「地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」プログラムとの連携担当

杉　村　延　広	工学研究科（教授）	理系部会担当（女子大学院生表彰ほか）
森　澤　和　子	工学研究科（准教授）	理系部会担当（大学院生チーム、オープンキャンパスほか）
小　川　和　重	生命環境科学研究科（教授）	理系部会担当（女子大学院生表彰ほか）
片　岡　道　彦	生命環境科学研究科（教授）	理系部会担当（大学院生チームほか）
中　山　美由紀	看護学部（教授）	健康相談窓口担当
立　山　清　美	総合リハビリテーション学部（講師）	意識啓発活動担当
若　林　　緑	経済学部（准教授）	保育室開設・運営担当
山　本　憲　央	総務部総務人事課（課長補佐）	「柔軟な勤務時間体制」担当

事務局（平成 24 年 3 月現在）

氏　名	所 属 部 局（職名）	担 当 事 業
船　野　智加枝	総務部総合調整室（室長）	事務統括管理
松　田　昌　彦	総務部総合調整室（課長補佐）	事務統括管理
勝　島　小百合	総務部総合調整室（総括主査）	事務統括管理
巽　　真理子	女性研究者支援センター（コーディネーター）	実施管理
安　西　由美子	女性研究者支援センター	事務担当
関　　洋江	女性研究者支援センター	広報・情報担当
大　成　直　美	女性研究者支援センター	人事・庶務担当
有　川　貴美子	女性研究者支援センター	キャリアパスの構築と裾野拡大担当

２．初年度の実績と今年度の実施計画

（1）平成 22 年度　実績

1）支援のための環境整備

女性研究者支援センターの設立、コーディネーターの配置と相談窓口の設置、女性研究者のためのメンター制度準備、学内の女性研究者等のネットワークの構築、研究支援員の配置、在宅勤務への支援、学内保育園の建設・準備、健康相談窓口の設置、理系女性研究者チャレンジ支援準備

2）全学的意識改革

学内での意識改革、学内外での講演会や各種イベントの開催、評価と改善（外部評価委員会の設置）

3）キャリアパスの確立

ロールモデル・バンクの構築、行政・企業との連携事業準備、オープンキャンパス等でのイベント開催、世界に翔くためのキャリアパス支援

4）サポート基盤整備

在宅勤務支援情報機器整備、人的ネットワークのシステム構築準備、ホームページ作成

（2）平成 23 年度　計画

1）支援のための環境整備

女性研究者支援センターの相談窓口運営、女性研究者のためのメンター制度始動、研究支援員の配置、在宅勤務への支援、学内保育園の開設、健康相談窓口運営、理系女性研究者チャレンジ支援

2）全学的意識改革

学内での意識改革、学内外での講演会や各種イベントの開催、先進的な海外の大学との連携準備、評価と改善（外部評価委員会の開催）

3）キャリアパスの確立

ロールモデル・バンクの運用、行政・企業との連携事業実施、オープンキャンパス等でのイベント開催、世界に翔くためのキャリアパス支援

4）サポート基盤整備

在宅勤務支援情報機器整備とメンテナンス、人的ネットワークのシステム構築、ホームページでの情報提供

Ⅱ．事業実施報告

1．支援のための環境整備

事業一覧（時系列）

※○内の数字は開催または発行回数を示す。

月	事業内容	連携先	
		学内	地域（学外）
4月	4／1：つばさ保育園開園		
	4／1：在宅就業支援（Webカメラ付PC貸出1セット）		
	4／1：研究支援員配置①（理学系研究科2名・21世紀科学研究機構1名（ともに中百舌鳥キャンパス）、生命環境科学研究科（りんくうキャンパス）1名）		
	4/11：理系部会①		
5月	5/12：女性研究者ヒアリング（2名）		
	5/19：国内調査（上智大学）		
	5/23：岡崎中学の見学受入（4名）		
	5/27：運営委員会①		
	メンター制度検討開始		
	女性研究者SNS検討開始		
6月	6／1：斐文会会報へ記事掲載		→斐文会（大阪女子大学同窓会）
	6/10：支援センター人事・庶務担当職員　雇用開始		
	6/14：研究支援員申請審査会開催		
	6/15：研究支援員配置②（工学研究科（中百舌鳥キャンパス）1名）		
	6/22：国内調査（関西学院大学）		
	奈良県立医科大学へ女性研究者研究活動支援事業への申請アドバイス		
7月	7／4・6・11・13：健康相談ミニセミナー	→学生課、教育推進課	
	7／8：研究支援員配置③（工学研究科（中百舌鳥キャンパス）1名）		
	7/25：女性研究者懇話会①		
	7/26：支援センター裾野拡大担当職員　雇用開始		
	7/29：ニュースレター3号発行・配布	→教育推進課	
	7/29：改訂版パンフレット発行		
8月	8／1：研究支援員配置④（生命環境科学研究科（りんくうキャンパス）1名）		
	8／1・3・8・10：健康相談ミニセミナー	→学生課、教育推進課	
	8／1：在宅就労支援（webカメラ付PC貸出1セット）		

月	事　業　内　容	連　携　先	
		学　内	地域(学外)
8月	8/16：滋賀医科大学来学(1名)		
	8/22：NWEC ワークショップ準備会(静岡大学にて)【静岡大学・山形大学・長崎大学・本学】		
9月	9/5・7・12・14：健康相談ミニセミナー	→学生課、教育推進課	
	9/6：SNS 準備 WG①		
	9/9：首都大学東京来学(3名)	→理事長室	
10月	10/1：研究支援員配置⑤(生命環境科学研究科(りんくうキャンパス)1名)		
	10/3・5・12・17：健康相談ミニセミナー	→学生課、教育推進課	
	10/4：運営委員会②		
	10/11：ステアリング委員会①	→21世紀科学研究機構	
	10/19：ニュースレター4号発行・配布	→教育推進課	
	10/20：SNS 準備 WG②		
	10/22：NWEC ワークショップにて事業概要説明【静岡大学・山形大学・長崎大学・本学】(31名参加)		
	10/27：(株)マザーネットによる取材		
	在宅就労支援(web カメラ付 PC 貸出　1セット)		
	10/31：男女共同参画学協会シンポジウム参加(筑波大学)		
11月	11/1～2：女性研究者支援システム改革プログラム事業合同シンポジウム参加(筑波大学)		
	11/2・7・9・14：健康相談ミニセミナー	→学生課、教育推進課	
	11/11：国内調査(岡山大学)	→学生課、教育推進課	
	11/11：中国四国男女共同参画シンポジウムにポスター参加(岡山大学)		
	11/13：デート DV 講演会〈協力〉(80名参加)	→地域連携研究機構「女性学研究センター」「地域福祉研究センター」、人間社会学部「就業力 GP」	→堺市男女共同参画推進課
	11/19：サイエンス・アゴラ視察		
	11/22：女性研究者懇話会②		
12月	12/5・7・12・14：健康相談ミニセミナー	→学生課、教育推進課	
	12/9：「大学職員のための男女共同参画推進研修」にて事業説明(NWEC)(30名参加)		→NWEC
	12/19：国内調査(神戸大学)		
	プラスワン制度(女性研究者採用促進策)実施		
1月	1/11・16・23・25：健康相談ミニセミナー	→学生課、教育推進課	
	1/18：岩手大学来学(1名)		

月	事　業　内　容	連　携　先	
		学　内	地域(学外)
1月	1/18～31：学内アンケート実施		
	1/19：JST 事業視察		
	1/20：東京理科大学来学(5名)		
	1/26：国内調査(香川大学)		
	1/27：国内調査(愛媛大学)		
2月	2/1・6・8・13：健康相談ミニセミナー	→学生課、教育推進課	
	2/15：SNS 準備 WG③		
	平成24年度研究支援員申請受付		
	2/18：国内調査(東北大学)		
	2/20：国内調査(岩手大学)		
	2/21：国内調査(首都大学東京)		
	2/22：運営委員会③		
	2/24：富田林市「男女共同参画公開セミナー」にて事業紹介		→富田林市
	2/27：外部評価依頼		
	2/29：国内調査(静岡大学)		
3月	3/1：和歌山大学へ女性研究者研究活動支援事業への申請アドバイス		
	3/3：東北大学「サイエンス・エンジェル活動報告会」にて、IRIS 活動報告		
	3/5・7・12・21：健康相談ミニセミナー	→学生課、教育推進課	
	3/6：ステアリング委員会②	→21世紀科学研究機構	
	3/6：大阪大学「男女共同参画セミナー」にて事業説明		
	ニュースレター5号発行・配布	→教育推進課	
	平成23年度事業報告書発行		
定期的または随時実施	支援センター相談		
	女性の健康相談(月4回：中百舌鳥2回、りんくう1回、羽曳野1回)	→学生課、教育推進課	
	つばさ保育園についての問い合わせ対応	→総務人事課	
	平成23年度研究支援員申請受付(予算の許す限り)		

（1）ステアリング委員会の開催

本事業を全学的な取り組みとして進めるため、理事長を委員長とするステアリング委員会を2回開催した。昨年度の最後の委員会を3月に行ったため、第1回は10月に開催した。

今年度は、科学技術振興調整費が文部科学省の補助金に切り替わったことに伴って、本学で科学技術振興調整費に採択されていた「地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」、「地域・産業牽引型高度人材育成プログラム」、「地域・産業牽引型研究リーダー養成プログラム」と本事業を申請書記載の時期より2年早く統合し、「科学技術人材育成ステアリング委員会」として改めて設置した。また、学内の組織改編に伴い、委員には学群長も加えた20名で組織した（p.6 委員名簿参照）。

また、委員会開催の他にも必要に応じて、役員連絡会や部局長連絡会議などを通じて、また個別に、事業についての協力依頼・相談・報告等を行っている。

① 第1回議題（平成23年10月11日　中百舌鳥キャンパス）

- ▶平成23年度の実績と今年度の事業予定について
- ▶ロールモデル・セミナーについて
- ▶女性研究者支援センターの体制について

② 第2回議題（平成24年3月6日　中百舌鳥キャンパス）

- ▶今年度の実績と今後の事業予定
- ▶来年度の事業予定について
- ▶事業終了後の継続について

（2）運営委員会の開催

事業を円滑に進めるため、女性研究者支援センター運営委員会を3回開催した。運営委員は学内全部局から選出しているが、理系部局への支援強化を図るため、今年度より理系部局からの運営委員を2名ずつに増員した（p.6-7 委員名簿参照）。運営委員は実際に事業を進めるにあたって、各部局との交渉や事業の企画・運営など、事業推進の大きな力となった。

① 第1回議題（平成23年5月27日　中百舌鳥キャンパス）

- ▶運営委員紹介と女性研究者支援センターの体制について
- ▶ステアリング委員会の開催時期について
- ▶「教職員・院生支援のためのアンケート調査」最終結果報告
- ▶女性研究者ヒアリング報告
- ▶ミッションステートメントの達成度について
- ▶今年度の予算と事業計画について
- ▶「ロールモデル・バンク運用規程」の改訂とリクルーターへのロールモデル応募依頼について

② 第 2 回議題（平成 23 年 10 月 4 日　中百舌鳥キャンパス）

▶今年度の実績報告

▶今後の事業予定について

▶女性研究者支援センターの体制について

▶事業終了後の継続について

③ 第 3 回議題（平成 24 年 2 月 22 日　中百舌鳥キャンパス）

▶今年度の実績報告と今後の事業予定について

▶来年度の事業予定と女性研究者支援センターの体制について

▶事業終了後の継続について

（3）理系部会の開催（平成 23 年 4 月 11 日　中百舌鳥キャンパス）

理系部局への支援体制を強化するため、理系部局の運営委員で理系部会を立ち上げた。4 月に会議を開催し、その後はメール会議で企画立案等を行った。

▶理系部会の立ち上げについて

▶表彰制度について

▶セミナー・講演会について

▶オープンキャンパスについて

（4）外部評価委員会の開催（平成 24 年 2 月）

第三者の立場から本事業の評価を行うため、外部評価委員に対して、書面にて今年度の事業報告を行い、それに対する評価を受けた（評価内容については、p.88-89 参照）。

〈外部評価委員会　委員名簿〉

＊：委員長（委員長以外は 50 音順）

稲葉　カヨ＊	京都大学女性研究者支援センター長、京都大学生命科学研究科教授、理学博士
東　　一洋	株式会社日本総合研究所　総合研究部門　社会・産業デザイン事業部　シニアマネージャー
戒能　民江	お茶の水女子大学名誉教授、第21期・22期日本学術会議会員、法学修士
溝口　明代	株式会社サンケイリビング新聞社　取締役

（5）女性研究者支援センターの運営（中百舌鳥キャンパス）

今年度は、事業の展開により業務量が増えたことを受け、6 月より人事・庶務担当職員を 1 名増員し、センター長も含めて 6 名体制で運営を行った（p.7 事務局名簿参照）。

（6）研究支援員の配置（中百舌鳥キャンパス、りんくうキャンパス）

妊娠・出産、育児（末子が小学校６年生まで）によって研究時間の確保が難しい、理系分野の女性研究者（教員）７名に対して、のべ８名の研究支援員を配置した。

研究支援員　23 年度実績

支援対象者	所　　属	期　　間	支援員職位	勤 務 日 数
研究者①	21世紀科学研究機構	４月１日～３月31日	特任支援員Ｂ	６時間／日×週５日
研究者②	工学研究科	６月15日～３月31日	技術補助	６時間／日×週５日
研究者③	工学研究科	10月１日～３月31日	事務補助	７時間／日×週１日
研究者④	生命環境科学研究科	４月１日～３月31日	特任支援員Ｂ	４時間／日×週４日
研究者⑤	生命環境科学研究科	①８月１日～８月31日	特任支援員Ｂ	６時間／日×週５日
		②９月１日～１月31日	特任支援員Ｂ	８時間／日×17日
研究者⑥	理学系研究科	４月１日～３月31日	事務補助	８時間／日×週４日
研究者⑦	理学系研究科	４月１日～３月31日	特任支援員Ｂ	６時間／日×週５日

〈研究支援員の職位について〉

基本的に、研究支援員の学歴・経歴に合わせて摘要している。

- 特任支援員Ａ：博士の学位を有する者又は同程度の能力を有するもの
- 特任支援員Ｂ：修士の学位を有する者又は同程度の能力を有するもの
- 事務補助、技術補助：上記に該当しないものに摘要

（7）在宅就労支援（web カメラ付き PC 貸出）

上記（6）の研究支援員を配置している女性研究者を対象に、研究者が自宅で研究を行う際に、大学にいる研究支援員への指示、学生への指導、大学で行われる会議等に参加することができるよう、web カメラ付き PC の貸出を行った。今年度は３研究者に対して、３セット（６台）を貸し出した。

（8）相談窓口の運営

1）支援センター相談

女性が研究を続けていくための支援策等の相談に、女性研究者支援センターのコーディネーターが応じた。相談日時は特に指定せず、女性研究者支援センターが開室している間とした。今年度の相談件数は 15 件で、これには、女性研究者へのヒアリング調査、および、つばさ保育園に関するものを含んでいる。なお、つばさ保育園入園に関する相談・問い合わせについては、女性よりも男性からの件数の方が多く（女性１件　男性４件）、男性のワークライフバランスへの支援の必要性がうかがわれる。

今後の課題として、相談窓口がさらに活用されるよう工夫することが必要であるが、来年度には昨年度・今年度に引き続き、女性研究者支援センターから女性研究者へ積極的にヒアリングに行くことも検討する。

2）女性の健康相談

助産師が全キャンパスにおいて、女性の教職員および学生の健康に関する個別相談に応じた。毎月、中百舌鳥キャンパスで２回、りんくうキャンパスで１回、羽曳野キャンパスで１回実施し、今年度の相談件数は９件であった。今年度７月からは、個別相談の周知も兼ねて、相談日の昼休みに「ミニセミナー」を実施した。ミニセミナーは、回を重ねるごとに少人数ながら参加者が増えており、参加者がセミナー後に個別相談するケースもあった。ミニセミナーへの参加者は、のべ79名。

課題として、さらに学内で周知し、利用・参加しやすい工夫が必要と思われる。

女性の健康相談
ミニ・セミナーのお知らせ

ぜひこの機会に、自分自身の健康について一緒に考えてみませんか?

女性の健康相談窓口では、7月より毎月テーマを変えて、女性の健康についてのミニ・セミナーを行います。
お昼ご飯を食べながら、お気軽にご参加ください。

7月のテーマ
「生理痛」とのつきあい方
講師：藤野 百合（助産師 女性の健康相談 相談員）

セミナー日時＆場所：
７月４日（月）羽曳野キャンパス（K403 教室）
６日（水）中百舌鳥キャンパス（B16棟 健康管理センター会議室）
１３日（水）中百舌鳥キャンパス（ 〃 ）
１１日（月）りんくうキャンパス（1F 会議室）

いずれも12:15 ～ 12:45

対象は、本学の女子大学生・院生と
女性教職員（非常勤を含む）です。
昼食持込み可。申込不要。

中百舌鳥キャンパス B16 棟
健康管理センター会議室
（女性研究者支援センター横）
池
B16 棟
学生会館
生協
駐輪場
B3 棟
白鷺門→

女性の健康相談（個別相談）もしています
対象　本学の女性教職員（非常勤を含む）、および女子大学生・院生
申込　原則として、事前予約により実施（他に予約がなければ、当日でも可）
前日までにメールにてお申し込みください
e-mail　w-support@ao.osakafu-u.ac.jp
場所　相談者が希望するところ（研究室、会議室等）
またはセンターの指定する場所
実施日
第一月曜日　9：30－13：30　羽曳野キャンパス
第二月曜日　9：30－13：30　りんくうキャンパス
第一・二水曜日 9：30－13：30　中百舌鳥キャンパス
※いずれかの日が祝日と重なった場合は、それ以降の予定を1週ずつずらして実施します。
各月のカレンダーは女性研究者支援センター ウェブサイトでご確認ください。

問合せ先：大阪府立大学 女性研究者支援センター
中百舌鳥キャンパス B16 棟
TEL/FAX . 072-254-9856（平日 9:30~17:30）
E-Mail .　w-support@ao.osakafu-u.ac.jp
女性研究者支援センター・ウェブサイト
http://www.opu-genki.jp

元気！活き生き 女性研究者・公立大学モデル
文部科学省　科学技術人材育成費『女性研究者支援モデル育成』事業

3）メンター相談

メンター制度については、既に本学では平成20年度から、「若手研究者の自立的研究環境整備促進」事業（文部科学省補助事業）である「地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」プログラムにおいて実施されており、テニュア・トラック教員として採用された女性研究者に対しては、研究についてのメンター（男性含む）に加えて、女性研究者のメンターが配置されている。

これを受けて、女性研究者支援センターでは、他の機関の例を参考に、女性研究者懇話会（下記（9）参照）やIRIS（p.46参照）へヒアリングを通じて、本学の女性研究者が使いやすい制度設計を検討してきたが、今年度中には、本学の状況に適切な制度設計が決定できなかった。今後は、今年度開設した女性研究者SNS（下記（10）参照）上でのやりとりも参考にして、女性研究者懇話会やロールモデル・セミナー、サイエンス・カフェ等の活用や、メンタリングを兼ねたセミナーの開催等によって、女性の若手研究者や大学院生がメンターと出会える場を、数多く設定していく予定である。

（9）女性研究者懇話会　ランチ・ミーティング開催

① 第1回　平成23年 7月25日　中百舌鳥キャンパス　10名参加

② 第2回　平成23年11月22日　中百舌鳥キャンパス　8名参加

学内の女性研究者ネットワーク構築の一環として、女性研究者の呼びかけで、昼休みを利用したランチ・ミーティングが開催された。文系・理系、博士前期課程の大学院生から教授まで、幅広い女性研究者が集まった。第2回からは、幹事を持ち回りで行う等、参加者がより主体的に関わるようになっている。

ランチミーティング（第1回　7月25日）

ランチミーティング（第2回　11月22日）

（10）女性研究者 SNS の開設と運営（平成 24 年 2 月）

前述（9）の女性研究者懇話会からの提案を受け、女性研究者同士が情報交換するバーチャルな場として、SNS を開設した。この SNS の設計にあたっては、女性研究者懇話会および IRIS（p.46 参照）に呼びかけて、SNS 準備 WG（ワーキンググループ）を立ち上げ、実際に使用する側の意見を取り入れるようにした。平成 24 年 2 月～ 3 月は、女性研究者懇話会と IRIS のメンバーが試験的に使用し、来年度初めからは全学を対象にして本格稼働する予定である。また、この SNS の活用により、離れたキャンパス間での女性研究者のネットワーク構築を目指す。

SNS 準備 WG

（部局等は平成 24 年 3 月現在）

氏　名	部局・職位または学年	備　　考
真嶋由紀恵	高等教育推進機構・教授	女性研究者懇話会運営委員
清原　文代	高等教育推進機構・准教授	女性研究者懇話会
中川　智皓	工学研究科・助教	女性研究者懇話会（世話人）
谷　　彩夏	生命環境科学研究科・博士前期課程 2 年	IRIS
巽　真理子	女性研究者支援センター	コーディネーター
関　　洋江	女性研究者支援センター	広報・情報担当
有川貴美子	女性研究者支援センター	キャリアパスと裾野拡大（IRIS）担当

① 第 1 回　平成 23 年 9 月 6 日　中百舌鳥キャンパス
② 第 2 回　平成 23 年 10 月 20 日　中百舌鳥キャンパス
③ 第 3 回　平成 24 年 2 月 15 日　中百舌鳥キャンパス

（11）パンフレットとニュースレターの発行

本事業の内容と、その進捗状況や成果を紹介するため、パンフレットとニュースレターを発行した。教育推進課の各部局支援室・学科事務所等の協力を得て、学内の教職員および大学院生に配布したほか、地域連携を図るため、大阪府内の行政機関や男女共同参画推進センター等に配布した。

また、平成 24 年 1 月より毎月、事業予定を案内するために、ステアリング委員、運営委員および外部評価委員に対してメールニュースを配信している。

▶パンフレット　平成 23 年 7 月 29 日発行　1,500 部

▶ニュースレター

①　3 号　平成 23 年 7 月 29 日発行　4,000 部

②　4 号　平成 23 年 10 月 19 日発行　5,000 部

③　5 号　平成 24 年 3 月 7 日発行　5,000 部

（12）女性研究者支援センター・ウェブサイトの運営

本事業の内容と、その進捗状況や成果を紹介するため、ウェブサイトの運営を行った。これから行う事業の告知をウェブサイトで行う際には、相乗効果をねらって、チラシ配布や学内ポータルサイト、外部ウェブサイト等とのリンクを心がけている。

女性研究者支援センター・ウェブサイト URL　http://www.opu-genki.jp/

運営委員会では課題として、大学ウェブサイトからのリンクが悪いこと、検索にヒットしにくいこと等が挙げられた。大学ウェブサイトを運営する広報課とのやり取りでは改善が困難と回答されているため、女性研究者支援センター側でさらに工夫を重ねる必要がある。

（13）「教職員・院生支援のためのアンケート調査」の実施

（平成 24 年 1 月 18 日～ 31 日　全キャンパス）

本学における仕事や研究・勉学と家庭生活・個人生活の両立しやすい環境整備を行うため、また、本事業の認知度を測るために、全学の教職員および大学院生を対象に実施した。配布数 3,372 に対して、回収数 1,108（回収率 32.9%）であった（分析結果については p.74-85 参照）。全般的に、本事業については周知度が高まっている。しかし、本事業を支える大学の「多様な人材活用推進の基本方針」や、文部科学省の「女性研究者支援システム改革プログラム」については依然として認知度が低く、今後の課題として残された。

（14）ロールモデル・バンク構築

ロールモデル候補者に登録してもらうことによりセミナーの講師等へ人材活用するため、昨年度立ち上げたロールモデル・バンク・システムを活用して、ロールモデル・バンクの充実を図った。今年度は、ロールモデル・セミナー等に講師招聘した方や、学内の女性研究者を対象に、登録の呼びかけを行った。

また、昨年度は女性だけを登録対象としていたが、今年度からは、仕事と家庭の両立支援制度の活用により活躍し、配偶者のキャリアをサポートしている男性も登録できるよう、運用規定改正を行った。平成 24 年 3 月現在、登録数は 27 名（うち男性 1 名）である。

今後の課題として、企業や行政と連携して、さらに多様なロールモデルの人材登録を目指していく。また、ロールモデル・バンク登録者の一部の方々をロールモデル集に掲載したが、ロールモデル・セミナーやサイエンス・カフェの講師など、それ以外の活用が、本人の多忙その他の理由から不十分であり、ロールモデル・バンクの有効活用も今後の課題である。

（15）他機関との交流・連携　※実施者のうち、所属がないものは女性研究者支援センター

1）学外での事例発表

① NWEC ワークショップ準備会（平成 23 年 8 月 22 日　静岡大学にて　実施者：田間泰子・巽真理子）

② 「NWEC フォーラム　男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」山形大学、静岡大学、長崎大学と共催で、ワークショップ開催：（平成 23 年 10 月 22 日　国立女性教育会館（NWEC）にて　実施者：田間泰子・巽真理子）

③ 「第 9 回 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム」ポスター発表（平成 23 年 10 月 31 日　筑波大学にて　実施者：田間泰子・巽真理子）

④ 「女性研究者研究活動支援事業　合同公開シンポジウム」ポスター発表およびグループディスカッシ

ョン（平成 23 年 11 月 1 日・2 日　筑波大学にて　実施者：船野智加枝（総務部総合調整室）、田間泰子・巽真理子）

⑤「中国四国男女共同参画シンポジウム」ポスターおよび口頭発表（平成 23 年 11 月 11 日　岡山コンベンションセンターにて　実施者：巽真理子・安西由美子）

⑥「大学職員のための男女共同参画推進研修」口頭発表（平成 23 年 12 月 9 日　国立女性教育会館（NWEC）にて　実施者：巽真理子）

⑦「四国女性研究者フォーラム」ポスター発表（平成 24 年 1 月 27 日　愛媛大学にて　実施者：巽真理子・関洋江）

⑧ 東北大学「サイエンスエンジェル活動報告会」IRIS 活動報告（平成 24 年 3 月 3 日　東北大学にて　実施者：有川貴美子・関洋江）

⑨ 大阪大学「男女共同参画セミナー」口頭発表（平成 24 年 3 月 6 日　大阪大学にて　実施者：田間泰子）

2）他大学・研究機関との交流・情報交換

① 上智大学「第 8 回女子学生キャリアアップ支援コロキウム」への参加と、メンター制度についてヒアリング調査（平成 23 年 5 月 19 日　上智大学にて　実施者：巽真理子）

② 関西学院大学「女性研究者支援フォーラム」への参加（平成 23 年 6 月 22 日　関西学院大学にて　実施者：安西由美子）

③ 奈良県立医科大学へ、女性研究者研究活動支援事業の申請アドバイス（平成 23 年 6 月　実施者：田間泰子）

四国女性研究者フォーラム　ポスター発表

中国四国男女共同参画シンポジウム　口頭発表

④ 滋賀医科大学との情報交換（平成 23 年 8 月 16 日　本学にて　実施者：田間泰子・巽真理子）

⑤ 首都大学東京との情報交換（平成 23 年 9 月 9 日　本学にて　実施者：奥野武俊（理事長・学長）、仲野浩一・菅野伊久央（総務部総務人事課）、船野智加枝・松田昌彦・勝島小百合（総務部総合調整室）、巽真理子）

⑥ 岡山大学ダイバーシティ推進本部の体制についてヒアリング調査（平成 23 年 11 月 11 日　岡山コンベンションセンターにて　実施者：巽真理子・安西由美子）

⑦ 「サイエンス・アゴラ」にて、サイエンス・コミュニケーションについての展示見学と、東北大学・日本ロレアル共催イベント「はばたけ理系女子！」への参加（平成 23 年 11 月 19 日　東京お台場（日本科学未来館、産業技術総合研究所、東京都立産業技術研究センター）にて　実施者：巽真理子）

⑧ 神戸大学「国際シンポジウム　Women in Science and Education　女性研究者がリードする持続可能な社会」への参加（平成 23 年 12 月 19 日　神戸大学にて　実施者：安西由美子）

⑨ 岩手大学との情報交換（平成 24 年 1 月 18 日　本学にて　実施者：田間泰子・巽真理子）

⑩ 東京理科大学との情報交換（平成 24 年 1 月 20 日　本学にて　実施者：菅野伊久央（総務部総務人事課）、勝島小百合（総務部総合調整室）、田間泰子・巽真理子）

⑪ 香川大学における女性研究者支援事業（保育サービス等）についてヒアリング調査（平成 24 年 1 月 26 日　香川大学にて　実施者：巽真理子）

⑫ 東北大学「シンポジウム 2011」への参加（平成 24 年 2 月 18 日　東北大学にて　実施者：巽真理子）

⑬ 岩手大学「男女共同参画推進シンポジウム」への参加（平成 24 年 2 月 20 日　岩手大学にて　実施者：巽真理子）

⑭ 首都大学東京ダイバーシティ推進室の体制についてヒアリング調査（平成 24 年 2 月 21 日　首都大学東京にて　実施者：巽真理子）

⑮ 静岡大学における採択期間終了後の支援事業継続についてヒアリング調査（平成 24 年 2 月 29 日　静岡大学にて　実施者：船野智加枝（総務部総合調整室）、田間泰子）

⑯ 和歌山大学へ、女性研究者研究活動支援事業の申請アドバイス（平成 23 年 6 月　本学にて　実施者：正木裕（理事）、船野智加枝（総務部総合調整室））

首都大学東京からの訪問

3）その他の交流・連携

① 愛知教育大学附属岡崎中学校からの見学受け入れ（平成 23 年 5 月 23 日　本学にて　実施者：田間泰子・巽真理子）

② 斐文会（大阪女子大学同窓会）会報へ記事掲載（平成 23 年 6 月 1 日発行分　実施者：田間泰子）

③ (株)マザーネットによる取材（平成 23 年 10 月 27 日　本学にて　実施者：田間泰子・巽真理子）

④ 堺市・本学人間社会学部共催「デート DV 講演会」への協力（平成 23 年 11 月 13 日　本学にて）

⑤ 富田林市「男女共同参画セミナー」にて事業紹介（平成 24 年 2 月 24 日　富田林市中央公民館にて　実施者：巽真理子）

マザーネット取材

岡崎中学　田間センター長から説明を受ける中学生

2．全学的意識改革事業

事業一覧（時系列）

月	事　業　内　容	連　携　先
4月	4／3：（さくらまつり）：つばさ保育園オープニング式典・内覧会（44名参加）	→広報課、総務人事課
	4／3：（さくらまつり）：公開セミナー（つばさ保育園開園記念）（30名参加）	→広報課
	4/27：授業「ジェンダー論への招待」で事業概要説明（150名参加）	→地域連携研究機構「女性学研究センター」
5月		
6月	6／7・8：理系各研究科長・支援室長と懇談	→工学・生命環境科学・理学系研究科
7月		
8月	子育て応援ピンバッジ・シール・キャンペーン	
9月		
10月		
11月		
12月	12/12～2/15：「リケジョのお仕事」図書展示（ロールモデル・セミナー⑤と連動）	→学術情報課
1月		
2月	「会議は17時まで」キャンペーン	→総務人事課
3月		

（1）公開セミナー・展示

1）つばさ保育園オープニング式典・内覧会

（平成 23 年 4 月 3 日　中百舌鳥キャンパスにて　44 名参加）

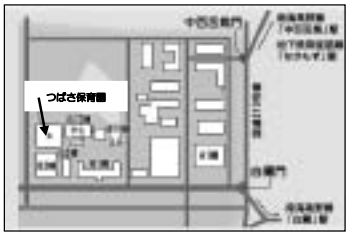
学内保育園「つばさ保育園」の開園を記念して、全学的イベント「花（さくら）まつり」内で実施した。この事業の広報を通じてつばさ保育園の開園を学内にアピールするとともに、堺市長に参加していただくことで堺市と連携することができた。

大阪府立大学「つばさ保育園」オープニング式典・内覧会のご案内

本学の学内保育施設「つばさ保育園」が、いよいよ４月１日に開園します。
花まつりの開催日にあわせて、下記のとおり、オープニング式典及び内覧会を行いますので、ぜひご参加ください。

記

１　日　時　平成２３年４月３日（日）１２：１５～１２：４５
２　場　所　つばさ保育園（B１６棟　新健康管理センター棟内）
３　内　容　【オープニング式典】（１２：１５～１２：２５）
(1) 挨拶　　大阪府立大学　奥野　武俊　理事長
(2) 来賓挨拶　堺市　　竹山　修身　市長
(3) テープカット
大阪府立大学　奥野　武俊　理事長
堺市　　竹山　修身　市長
大阪府立大学女性研究者支援センター　田間　泰子　センター長
社会福祉法人コスモス（運営受託事業者）　八田　忠敬　理事長
【内覧会】（１２：２５～１２：４５）
つばさ保育園の内部や園庭をご見学いただきます。
４　対象者　本学教職員・学生　３０名程度
５　申込先　大阪府立大学女性研究者支援センター
TEL・FAX：072-254-9856
E-mail：hoiku@ao.osakafu-u.ac.jp
６　その他　・式典終了後すぐに内覧会を始めますので、参加される方は、12:10 までに、つばさ保育園前にご集合ください。
・内覧会終了後、学内保育園オープニング記念講演「女も男も仕事と子育て！～ワークライフバランス実現のコツ～」を開催しますので、そちらにもぜひご参加ください（A5 棟 1 階 122 中講義室）。



〈オープニング式典〉

- あいさつ　　堺市：竹山修身市長
　　本学：奥野武俊（理事長）
- テープカット　堺市：竹山修身市長
　　本学：奥野武俊（理事長）
　　田間泰子（女性研究者支援センター長）
　　運営委託事業者：（社福）コスモス　八田忠敬理事長

〈内覧会〉

対象：本学教職員・学生

つばさ保育園オープニング式典

2）学内保育園オープニング記念講演「女も男も、仕事と子育て！　ワークライフバランス実現のコツ」　（平成 23 年 4 月 3 日　中百舌鳥キャンパスにて　30 名参加）

上記 1）と同日に、ワークライフバランスとそれを実現するために必要な支援策についての講演会を行った。学内からは、理事長・理事・職員も参加し、今後の本学におけるワークライフバランスについて、全学的に考える機会となった。また、来賓に堺市長を迎え、堺市との連携を図ることができた。

〈講師〉

上田理恵子　(株)マザーネット　代表取締役社長

中村喜一郎　経営・人財コンサルタント、本学工学研究科修了

〈来賓〉

竹山修身　堺市長

上田さん（左）
中村さん（右）

3）図書展示「リケジョ（理系女子）のお仕事　―私の未来を見つめる 103 冊―」

（平成 23 年 12 月 12 日～平成 24 年 2 月 15 日　中百舌鳥キャンパスにて）

本学学術情報課からの提案で、国立女性教育会館（NWEC）女性教育情報センターの「パッケージ貸出サービス」を利用して、理系分野の女性の仕事やロールモデル等についての図書・資料を展示した。開催時期は、1 月 24 日に開催したロールモデル・セミナー（p.40 参照）の関連事業として、その前後となるように設定した。

〈主催〉

学術情報センター図書館（学術情報課）

〈共催〉

女性研究者支援センター

図書展示　リケジョ（理系女子）のお仕事

理　系　女　子

リケジョのお仕事

- 私の未来を見つめる１０３冊 -

2011 年 12 月 12 日（月）～2012 年 2 月 15 日（水）
学術情報センター図書館　１階カウンター前

学術情報センター図書館では、テーマ展示『リケジョのお仕事 －私の未来を見つける 103 冊－』を実施しています。
通常の貸出冊数とは別に、1 人 2 冊 2 週間まで、図書を借りることができますので、ぜひご利用ください。

【府民利用者の方へ】
後期試験のため　2012 年 1 月 16 日（月）～2 月 10 日（金）は図書館をご利用いただけません。
（1 月 24 日（火）の講演会開催時の展示見学は可能です。）

主催：学術情報センター図書館　／　共催：女性研究者支援センター

この展示は、国立女性教育会館（NWEC）女性教育情報センターの「パッケージ貸出サービス」を利用し、NWEC の資料を借り受けて実施しています。

国立女性教育会館
http://www.nwec.jp/

大阪府立大学　女性研究者支援センター
ロールモデルセミナー

文部科学省　科学技術人材育成費
『女性研究者支援モデル育成』事業

放射線は怖い？ -物理と生物を結ぶ女性科学者の対話-

■場所: 大阪府立大学　中百舌鳥キャンパス
■日時: 平成 24 年 1 月 24 日（火）10:40～12:10
【事前申込み】定員 180 名　http://www.opu-genki.jp/

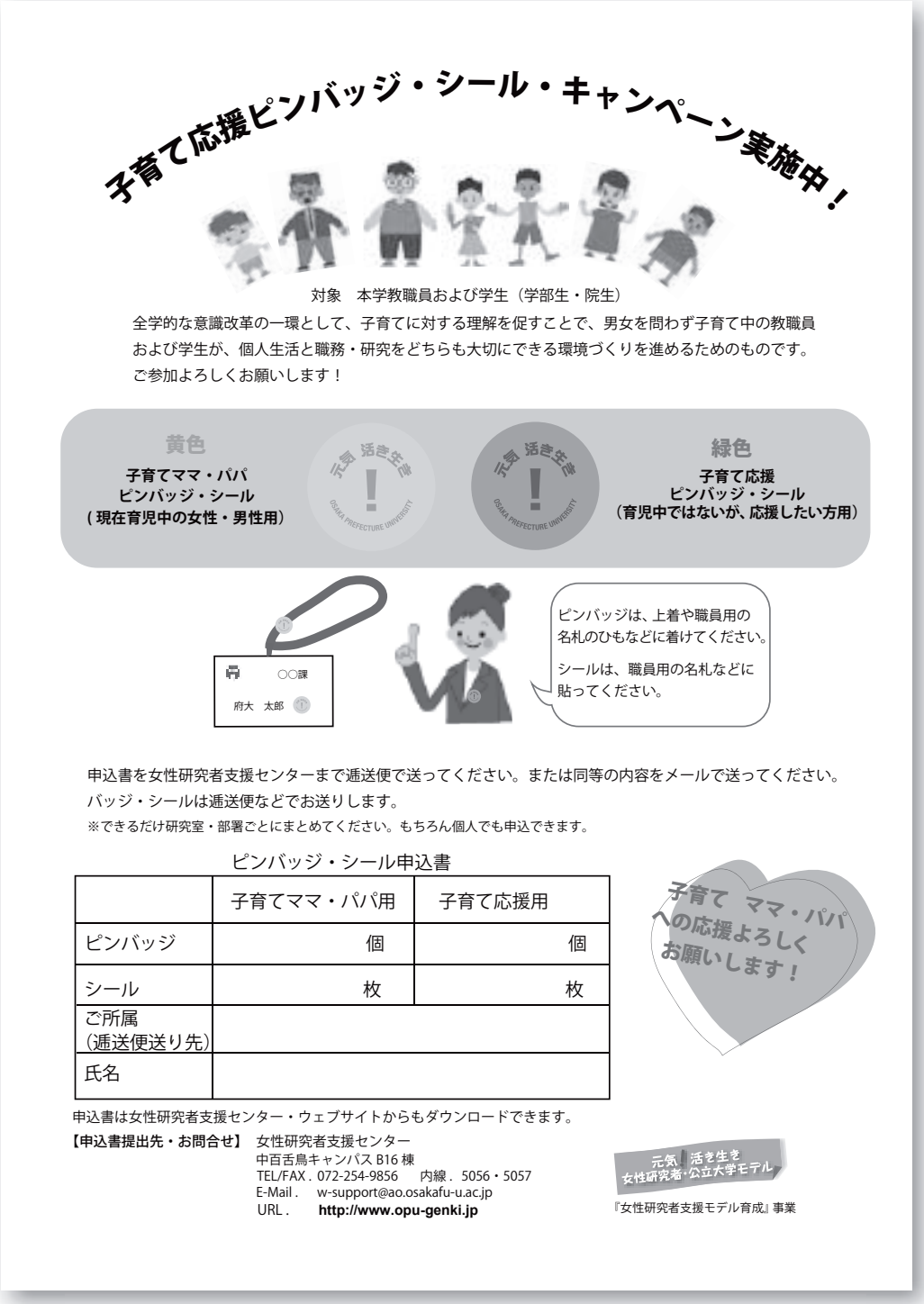
（2）学内向けキャンペーン（全キャンパスの教職員対象）

1）子育て応援ピンバッチ・シール・キャンペーン

（平成 23 年 8 月）

学内での育児に対する理解と、教職員のワークライフバランスへの配慮を深めるため、「子育て中」「子育て応援」の 2 種類のピンバッチとシールを、教職員に配布した。

このキャンペーンは随時行っているが、今年度は教職員の新規採用や異動が多かったため、8 月のニュースレター配布に合わせて、このキャンペーンについてのチラシを配布し、希望する教職員に配布した。



子育て応援ピンバッジ・シール・キャンペーン実施中！

対象　本学教職員および学生（学部生・院生）

全学的な意識改革の一環として、子育てに対する理解を促すことで、男女を問わず子育て中の教職員および学生が、個人生活と職務・研究をどちらも大切にできる環境づくりを進めるためのものです。
ご参加よろしくお願いします！

黄色
子育てママ・パパ
ピンバッジ・シール
（現在育児中の女性・男性用）

緑色
子育て応援
ピンバッジ・シール
（育児中ではないが、応援したい方用）

○○課
府大　太郎

ピンバッジは、上着や職員用の名札のひもなどに着けてください。
シールは、職員用の名札などに貼ってください。

申込書を女性研究者支援センターまで逓送便で送ってください。または同等の内容をメールで送ってください。
バッジ・シールは逓送便などでお送りします。
※できるだけ研究室・部署ごとにまとめてください。もちろん個人でも申込できます。

ピンバッジ・シール申込書

	子育てママ・パパ用	子育て応援用
ピンバッジ	個	個
シール	枚	枚
ご所属（逓送便送り先）		
氏名		

子育て　ママ・パパへの応援よろしくお願いします！

申込書は女性研究者支援センター・ウェブサイトからもダウンロードできます。

【申込書提出先・お問合せ】　女性研究者支援センター
中百舌鳥キャンパス B16 棟
TEL/FAX . 072-254-9856　内線 . 5056・5057
E-Mail . w-support@ao.osakafu-u.ac.jp
URL . http://www.opu-genki.jp

元気！活き生き 女性研究者・公立大学モデル
『女性研究者支援モデル育成』事業

2)「会議は 17 時まで」キャンペーン（平成 24 年 2 月～）

総務人事課と共催し、会議時間改善を呼びかけることを通じて、教職員のワークライフバランス意識を高めるために実施した。ポスターを作成して各部局に配布し、会議室や掲示板等に掲示した。

（3）授業での事業概要説明（平成 23 年 4 月 27 日　中百舌鳥キャンパス）

女性学研究センターが受け持っている「ジェンダー論への招待」内で、女性研究者支援センターのコーディネーターが出向いて実施した。「ジェンダー論への招待」は全学対象の授業で、オムニバスで行われている。受講者数 150 名。来年度は、女性研究者支援センターとして 1 コマを担当する予定。

（4）研究科長・支援室長との懇談（平成 23 年 6 月 7 日・8 日　実施者：田間泰子・巽真理子）

理系部局との連携を深めるため、理系三研究科長との懇談を行った。工学研究科および理学系研究科では、懇談の場に各研究科の事務を行っている支援室の室長が同席した。

本事業への理解を求めるとともに、各研究科における具体的な支援策について話し合った。これにより、各研究科での事業を進めやすくなったとともに、12 月にロールモデル・セミナーを理学部・理学系研究科と共催するなど、連携して具体的な事業を実施した。

3．キャリアパスの構築と裾野拡大

事業一覧（時系列）

※○内の数字は今年度の開催回数を示す。

月	事　業　内　容	連　携　先	
		学　内	地域（学外）
4月	4／3（さくらまつり）：子どもサイエンスキャンパス①（69名参加）	→広報課、理学系研究科	
5月	5／11～6／7：理系女子大学院生表彰募集①（H23年度9月以降発表分）（9名応募）	→工学・生命環境科学・理学系研究科	
	5／11～5／31：「理系女子大学院生チーム（仮）」募集（17名応募）	→工学・生命環境科学・理学系研究科	
	「理系女子大学院生チーム（仮）」募集説明会：5／17　りんくうキャンパス／5／18･24　中百舌鳥キャンパス	→工学・生命環境科学・理学系研究科	
6月	6／2：ロールモデル・セミナー①【工学研究科　内海助教】（33名参加）	→21世紀科学研究機構「看護システム先端技術研究所」、工学研究科	
	6／9：「理系女子大学院生チーム（仮）」審査会開催		
	6／24：サイエンス・カフェ（りんくうキャンパス）①（15名参加）	→生命環境科学研究科（獣医）	
7月	7／16：理系女子大学院生表彰最終審査①（H23年度9月以降発表分）	→工学・生命環境科学・理学系研究科	
	7／16：「理系女子大学院生チームIRIS」任命式	→工学・生命環境科学・理学系研究科	
	7／21：ノートルダム清心学園・清心女子高校運営指導委員会出席【田間・田島・中川】		→ノートルダム清心学園・清心女子高等学校
8月	8／6：子どもサイエンスキャンパス②（クレオ大阪東）【IRIS】（親子16組32名参加）		→大阪市男女共同参画センター東部館（クレオ大阪東）
	8／6・7：オープン・キャンパス【IRIS】（153名参加）	→工学・理学系研究科、入試室	
	8／10：ノートルダム清心学園・清心女子高等学校と交流会【IRIS】（40名参加）	→工学・生命環境科学研究科、人間社会学部、入試室・21世紀科学研究機構「植物工場研究センター」	→ノートルダム清心学園・清心女子高等学校
	8／17：子どもサイエンスキャンパス③（中百舌鳥子ども会）【IRIS】（52名参加）	→生命環境科学研究科	→中百舌鳥子ども会
	8／31：ノートルダム清心学園・清心女子高等学校と研究交流	→生命環境科学研究科	
9月	9／15・22：企画・実施講習会【IRIS】（14名参加）		
10月	10/12～11/11：理系女子大学院生表彰募集②（H24年度発表分）（5名応募）	→工学・生命環境科学・理学系研究科	
	10/21：サイエンス・カフェ（りんくうキャンパス）②（10名参加）	→生命環境科学研究科（獣医）	
	10/29：子どもサイエンスキャンパス④（高石小学校）【IRIS】（30名参加）		→高石市立高石小学校

月	事業内容	連携先	
		学内	地域(学外)
10月	10/29：「集まれ！理系女子」科学研究発表交流会において研究発表(清心女子高等学校)【IRIS】		→ノートルダム清心学園・清心女子高等学校
11月	11/16：ロールモデル・セミナー②【マレーシア工科大学　Sevia Mahdaliza Idrus】(23名参加)	→国際交流推進機構、工学研究科	
	11/17：ロールモデル・セミナー③【工学研究科森澤准教授】(29名参加)	→21世紀科学研究機構「看護システム先端技術研究所 」、工学研究科	
	11/17：さかい新事業創造センター(S-CUBE)訪問(14名参加)		→堺市
	11/21：大阪府中小企業家同友会訪問(８名参加)		→大阪府
12月	12/５：サイエンス・カフェ③(中百舌鳥)【テキサス大学オースチン校　Linda Reichl教授、Xiaoqin Elaine Li准教授】(５名参加)	→理学部・理学系研究科との協力	
	12/５：ロールモデル・セミナー④【東京大学永原教授】(58名参加)	→理学部・理学系研究科との協力	
	12/12：IRIS講習会・交流会【IRIS】(９名参加)		
１月	１/18：理系女子大学院生表彰最終審査②(H24年度発表分)		
	１/24：ロールモデル集第１集発行		
	１/24：ロールモデル・セミナー⑤【坂東理事長・宇野室長】(「ジェンダー論入門」として開催)(95名参加)	→地域連携研究機構「放射線研究センター」、人間社会学部	
	１/26：さかい男女共同参画週間【IRIS】「アサーショントレーニング入門」(19名参加)		→堺市
２月	２/５：子どもサイエンスキャンパス⑤(サかイエンス：ソフィア堺)【IRIS】(689名参加)	→地域連携研究課	→堺市教育センター
３月	IRIS活動報告集　発行		
	３/２：「Women Pioneers DVD鑑賞会読書会」ゲストスピーカー(ドーンセンター)【IRIS】		→大阪府男女共同参画推進財団
	３/５：IRIS活動報告会【IRIS】		
	３/10：ロールモデル・セミナー⑥(和泉市男女共同参画センター)【大阪府立大学高専中谷准教授】	→大阪府立大学工業高等専門学校	→和泉市男女共同参画センター
	３/13：若手研究者スキルアップ・セミナー		
	３/17：子どもサイエンスキャンパス⑥(和泉市男女共同参画センター)【IRIS】		→和泉市男女共同参画センター
	３/22～４/25：IRIS第二期生募集		
	３/27：子どもサイエンスキャンパス⑦(寝屋川市男女共同参画センター)【IRIS】		→寝屋川市男女共同参画センター

（1）ロールモデル・セミナーの開催

① 「顔認識の要素技術と看護・医療分野での応用」

平成 23 年 6 月 2 日　中百舌鳥キャンパスにて

講師：内海ゆづ子（本学工学研究科助教）

本学 21 世紀科学研究機構・看護システム先端技術研究所と共催　33 名参加

RIANT

今回は，大阪府立大学女性研究者支援センターと共催です

看護システム先端技術研究所
第22回 RIANT研究会(ご案内)

「看護システム先端技術研究所」では、人間が健康に生活できる環境を実現するために、看護学、情報システム科学、ロボット工学、電気・機械システム学などの広い分野の共同研究を行っています。
第22回研究会を以下の通り開催します。テーマに興味のある方ならどなたでも大歓迎です。一緒にディスカッションしてみませんか！？ぜひお気軽にご参加下さい。

内容

タイトル：顔認識の要素技術と看護・医療分野での応用
話題提供者：内海ゆづ子氏(大阪府立大学 工学研究科 助教)
概要：顔認識はComputervisionの研究分野において欠かせない技術の1つであり，セキュリティを中心に実用化が進んでます．しかし，監視カメラ等の低解像度で照明条件が変化する実際の画像に対しては未だに認識を行うことが困難であり，研究が続けられています．本発表では，私がこれまで行ってきた顔認識に対する特徴量評価，認識の高速化，動画像上での顔追跡，認識について紹介を行います．また，昨年度在籍したUniversity of Oxfordと日本の大学の違いや，所属していたActive Vision Groupの雰囲気や環境について紹介します．

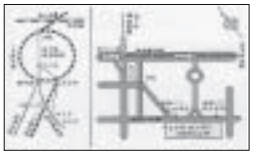
日時：平成23年6月2日(木) 18:00～19:30
場所：大阪府立大学 なかもずキャンパス
A09棟106会議室
申込方法： メールまたはFAX（申込書）で
（当日参加もOKですが、資料の準備の都合もありますので、できるだけ1週間前までにお申込みいただけると助かります）
参加費：無料
※講演会終了後，懇親会（有料）を予定しています．
＜申込・問合せ先＞
大阪府立大学高等教育推進機構　真嶋由貴恵
〒599-8531　大阪府堺市中区学園町1番1号
FAX：072-254-8397，e-mail：majima@las.osakafu-u.ac.jp
当日の連絡先：090-9739-9405（真嶋）

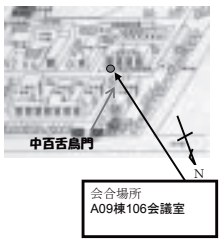
大阪府立大学　21世紀研究所「看護システム先端技術研究所」
ホームページ　http://www.21c.osakafu-u.ac.jp/610/

看護システム先端技術研究所
第22回 RIANT研究会(申込書)

宛先：大阪府立大学　高等教育推進機構　真嶋由貴恵
FAX：072-254-8397
e-Mail：majima@las.osakafu-u.ac.jp

参加について	研究会のみ，　研究会・懇親会，　懇親会のみ
お名前	
ご所属先	
連絡先メール（又は電話番号）	
参加動機（複数回答）	・テーマに興味がある　・仕事とかかわりが深い ・知識の習得　・スキルアップ　・他の人に誘われた ・他（　　）





② 「マレーシアのワーキングマザー事情」

平成 23 年 11 月 16 日　中百舌鳥キャンパスにて

講師：Dr. Sevia Mahdaliza Idrus（マレーシア工科大学准教授）

本学国際交流推進機構と共催　23 名参加

Dr. Sevia Mahdaliza Idrus

ゲストプロフェッサー講演会：「マレーシアのワーキングマザー事情」
（※　女性研究者支援センターと共催で、ロールモデルセミナーを兼ねています。）

日　時：　2011年11月16日（水）　2時限目（10：40～12：10）
場　所：　B3棟116教室
対　象：　本学の全学生
　　事前の申し込みは不要です
講　師：　Associate Professor Dr.　Sevia Mahdaliza Idrus
　　マレーシア工科大学、電気電子工学部准教授
　　平成23年度大阪府立大学「外国人招へい教員事業」招へい教員
使用言語：英　語

セミナー概要：
このセミナーでは、マレーシアのワーキングマザーの現状を取り上げ、マレーシア社会で働く女性たちにまつわる最近のトレンドや、働く女性の活躍の場がどのような分野に集中しているのか、また、男女間の賃金格差はどうなっているのか、など様々な情報や分析結果を紹介します。
講師である Sevia Mahdaliza Idrus 先生は、現在、マレーシア工科大学の電気電子工学部に所属しておられ、大学院の教育行政職にも就かれておられる女性研究者です。
このたび、国際交流推進機構では、Sevia 先生を「外国人招聘教員事業」で本学にお招きし、11 月 18 日までの滞在ご予定で、工学研究科の学生を対象に英語で授業やセミナーをご担当いただいています。大変ご多忙な女性研究者である Sevia 先生は、4人のお子様を持つ母親でもあり、セミナーでは、ワーキングマザーとしての個人的な経験談をお話いただきます。また、Sevia 先生と同じようにワーキングマザーとして社会でご活躍なさっておられる2人の女性についても紹介してくださる予定です。お2人は Sevia 先生の親しいご友人であり、ロールモデルでもあるそうです。
多数の学生の皆さんの参加をお待ちしています。

主催：　大阪府立大学　国際交流推進機構
共催：　大阪府立大学　女性研究者支援センター
実施：　大阪府立大学　工学研究科　勝山豊教授

お問い合わせ先：
　　国際交流課　072－254－9962（ダイヤルイン）

③「スケジューリングの手法と看護師勤務表への応用」

平成 23 年 11 月 17 日　中百舌鳥キャンパスにて

講師：森澤和子（本学工学研究科准教授、運営委員）

本学 21 世紀科学研究機構・看護システム先端技術研究所と共催　29 名参加

森澤准教授

RIANT

今回は，大阪府立大学女性研究者支援センターと共催で，ロールモデルセミナーを兼ねています．

看護システム先端技術研究所
第25回　RIANT研究会(ご案内)

「看護システム先端技術研究所」では、人間が健康に生活できる環境を実現するために、看護学、情報システム科学、ロボット工学、電気・機械システム学などの広い分野の共同研究を行っています。
第25回研究会を以下の通り開催します．テーマに興味のある方ならどなたでも大歓迎です。一緒にディスカッションしてみませんか！？ぜひお気軽にご参加下さい。

内容

タイトル：スケジューリングの手法と看護師勤務表作成への応用

話題提供者：森澤和子氏(大阪府立大学　工学研究科　准教授)

概要：質の高い看護体制が常時確保でき，かつ看護師一人一人が家庭環境に配慮しながら無理なく働くことができる良好な勤務表を作成することを目指して「看護師勤務表作成システム(ナース・スケジューリングシステム)」の開発に取り組んでいます．その基礎となっているスケジューリング理論の概要を工場における生産スケジューリング問題を例に説明するとともに，開発中の看護師勤務表作成システムについて紹介します．

日時：平成23年11月17日(木)　18:00～19:30
場所：大阪府立大学　なかもずキャンパス
B3棟1階　116講義室
申込方法：　メールまたはFAX（申込書）で
（当日参加もOKですが、資料の準備の都合もありますので、できるだけ１週間前までにお申込みいただけると助かります）
参加費：無料
※講演会終了後，懇親会（有料）を予定しています．

＜申込・問合せ先＞
大阪府立大学高等教育推進機構　真嶋由貴恵
〒599-8531　大阪府堺市中区学園町１番１号
FAX：072-254-8397，e-mail：majima@las.osakafu-u.ac.jp
当日の連絡先：090-9739-9405（真嶋）

大阪府立大学　２１世紀研究所「看護システム先端技術研究所」
ホームページ　http://www.21c.osakafu-u.ac.jp/610/

看護システム先端技術研究所
第25回　RIANT研究会(申込書)

宛先：大阪府立大学　高等教育推進機構　真嶋由貴恵
FAX：072-254-8397
e-Mail：majima@las.osakafu-u.ac.jp

参加について	研究会のみ，　研究会・懇親会，　懇親会のみ
お名前	
ご所属先	
連絡先メール（又は電話番号）	
参加動機（複数回答）	・テーマに興味がある　・仕事とかかわりが深い ・知識の習得　・スキルアップ　・他の人に誘われた ・他（　　）

場所：
B3棟1階
116講義室

白鷺門

N

RIANT

④「宇宙鉱物学：新しい領域の開拓をめざして」

平成 23 年 12 月 5 日　中百舌鳥キャンパスにて

講師：永原裕子（東京大学教授・猿橋賞受賞者）

本学理学部・理学系研究科と共催　58 名参加

司会をする前川研究科長（理学系研究科）

永原教授

大阪府立大学　女性研究者支援センター　ロールモデル・セミナー

宇宙鉱物学：
新しい領域の開拓をめざして

天文学・惑星科学・鉱物学の境界領域の新しいサイエンスの開拓が進められている。真空実験によるガスからの鉱物凝縮あるいは鉱物のガスへの蒸発の物理化学、天文観測、シミュレーション、隕石試料の分析を組み合わせ、太陽系のもととなった星の周囲における固体物質の形成から、それらが初期太陽系円盤においてどのような進化をとげて惑星素材となったかを、総合的に理解することが可能となってきたので、この概要を紹介する。また、理系出身の女性が研究の場で活躍するにあたっての問題と、それをいかに乗り越えるかについてもコメントする。

講師　永原　裕子　氏（東京大学理学系研究科教授　猿橋賞受賞者）

◆プロフィール：
早稲田大学理工学部資源工学科卒業。同修士課程修了。東京大学大学院理学系研究科地質学専攻修士課程、１９８４年同博士課程修了。 理学博士。日本学術振興会奨励研究員、東京大学理学部助手、同助教授を経て、２００１年より東京大学大学院理学系研究科教授。専門は惑星科学・宇宙惑星物質科学。宇宙における固体物質の形成実験・その進化についての理論的研究などをおこなっている。２００１年猿橋賞受賞、２００５年より日本学術会議会員、２００９年より日本学術振興会学術システム研究センター研究員。

日時：平成２３年１２月５日（月）１６：００-１７：３０
場所：大阪府立大学　中百舌鳥キャンパス　Ａ１２棟　サイエンスホール

◆プログラム：　司会　細越　裕子（大阪府立大学　理学部・理学系研究科教授）
１６:００-１６:０５　開会の挨拶　前川 寛和　（理学系研究科長・理学部長）
１６:０５-１７:２５　永原　裕子氏　講演
１７:２５-１７:３０　閉会の挨拶　田間　泰子（女性研究者支援センター長・人間社会学研究科教授）

◆参加費：無料
◆対象：本学学生・大学院生、教職員、一般
◆定員：１２０名　事前申し込みが必要です

◆お申し込み・お問い合せ：
電子メール・電話・FAX のいずれかで、名前・日中連絡可能な電話番号・住所をご記入の上、平成２３年１１月３０日（水）までに、下記までお申し込みください。

大阪府立大学　女性研究者支援センター
TEL/FAX：072-254-9856（平日 9:30～17:00）
E-MAIL：w-support@ao.osakafu-u.ac.jp
URL：http://www.opu-genki.jp

お申し込み時にいただきました個人情報は、本セミナー以外には使用しません。

◆アクセス
住所：大阪府堺市中区学園町１－１
・南海高野線「白鷺駅」下車、南西へ約 500m、徒歩約 6 分。
・地下鉄御堂筋線「なかもず駅（5 号出口）」下車、南東へ約 1000m、徒歩約 13 分。

［主催］大阪府立大学　女性研究者支援センター　　［共催］大阪府立大学　理学部/理学系研究科

⑤「放射線は怖い？　物理と生物を結ぶ女性科学者の対話」

平成 24 年 1 月 24 日　中百舌鳥キャンパスにて

講師：坂東　昌子（NPO 法人知的人材ネットワークあいんしゅたいん理事長、理学博士）

宇野賀津子（財団法人ルイ・パストゥール医学研究センター基礎研究部インターフェロン生体防御研究室長、理学博士）

本学地域連携研究機構・放射線研究センターと共催　95 名参加（本学人間社会学部「ジェンダー論入門」と連携）

坂東先生と宇野先生

⑥「子どものなぜは無限大　お母さん研究者に子育てのお話を聞いてみよう」

平成 24 年 3 月 10 日　和泉市男女共同参画センターにて

講師：中谷敬子（大阪府立大学工業高等専門学校准教授）

和泉市男女共同参画センターと共催　19 名参加

（2）サイエンス・カフェの開催

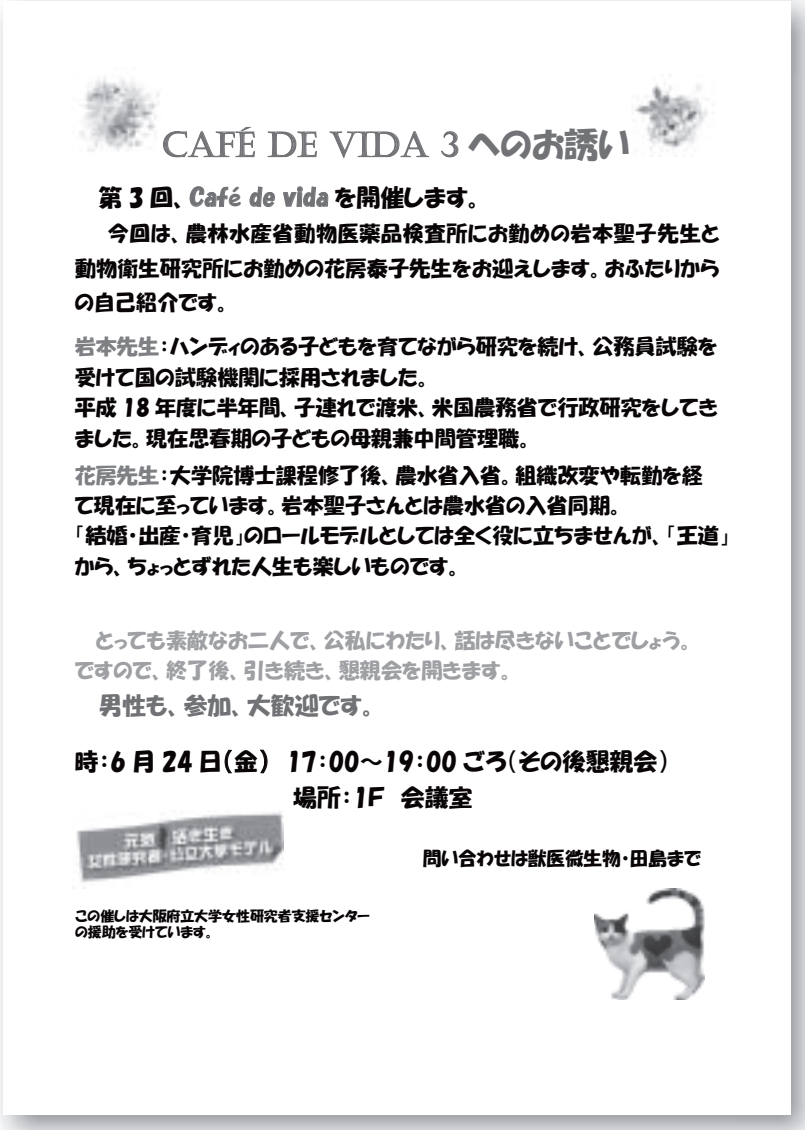
① 「CAFÉ DE VIDA3」

平成 23 年 6 月 24 日　りんくうキャンパスにて　15 名参加

講師：岩本聖子（農林水産省 動物医薬品検査所 企画連絡室 技術指導課長）

花房泰子（農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所 細菌・寄生虫研究領域 主任研究員）

協力：本学生命環境科学研究科　田島朋子准教授



CAFÉ DE VIDA 3 へのお誘い

第 3 回、Café de vida を開催します。

今回は、農林水産省動物医薬品検査所にお勤めの岩本聖子先生と動物衛生研究所にお勤めの花房泰子先生をお迎えします。おふたりからの自己紹介です。

岩本先生：ハンディのある子どもを育てながら研究を続け、公務員試験を受けて国の試験機関に採用されました。
平成 18 年度に半年間、子連れで渡米、米国農務省で行政研究をしてきました。現在思春期の子どもの母親兼中間管理職。

花房先生：大学院博士課程修了後、農水省入省。組織改変や転勤を経て現在に至っています。岩本聖子さんとは農水省の入省同期。
「結婚・出産・育児」のロールモデルとしては全く役に立ちませんが、「王道」から、ちょっとずれた人生も楽しいものです。

とっても素敵なお二人で、公私にわたり、話は尽きないことでしょう。
ですので、終了後、引き続き、懇親会を開きます。

男性も、参加、大歓迎です。

時：6 月 24 日（金）　17：00～19：00 ごろ（その後懇親会）
場所：1F　会議室

元気 活き生き 女性研究者・松下大学モデル

問い合わせは獣医微生物・田島まで

この催しは大阪府立大学女性研究者支援センターの援助を受けています。

② 「CAFÉ DE VIDA4」

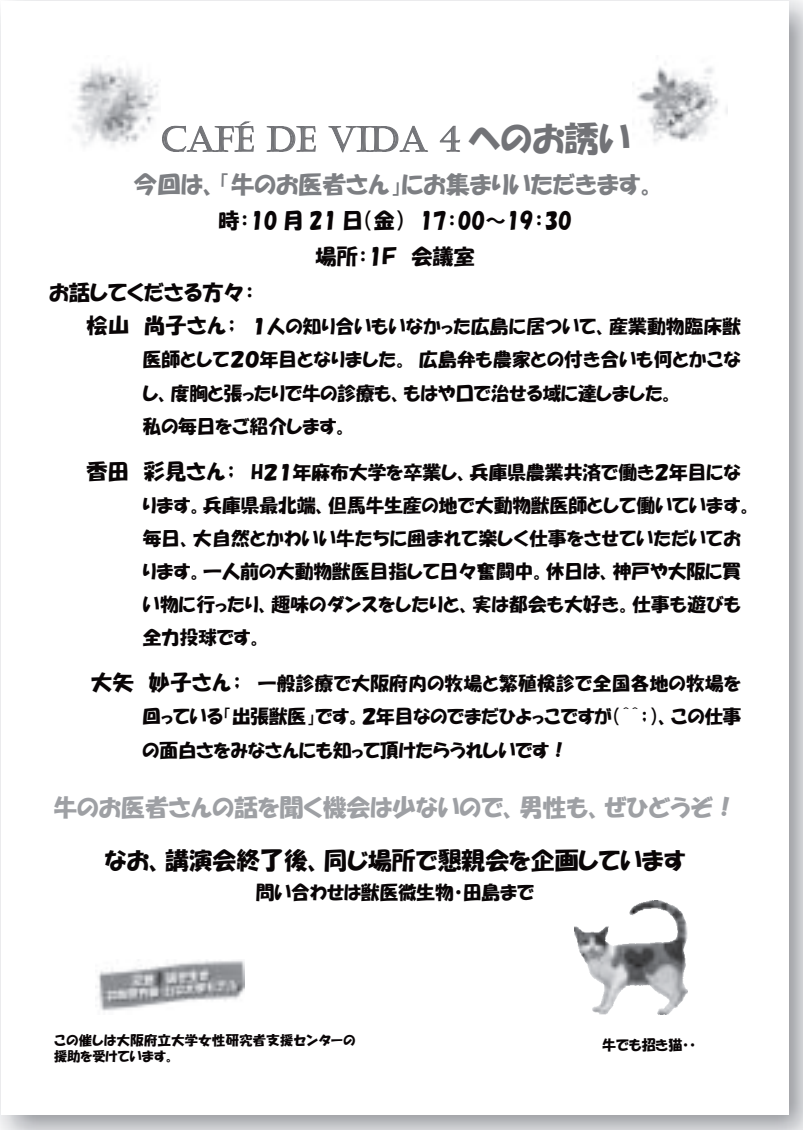
平成 23 年 10 月 21 日　りんくうキャンパスにて　10 名参加

講師：桧山尚子（広島県農業共済組合連合会 三次家畜診療所 係長）

香田彩見（兵庫県農業共済組合連合会 但馬基幹家畜診療所 技師）

大矢妙子（石井動物病院）

協力：本学生命環境科学研究科　田島朋子准教授



CAFÉ DE VIDA 4 へのお誘い

今回は、「牛のお医者さん」にお集まりいただきます。

時：10 月 21 日（金） 17：00～19：30

場所：1F 会議室

お話してくださる方々：

桧山 尚子さん： 1人の知り合いもいなかった広島に居ついて、産業動物臨床獣医師として20年目となりました。 広島弁も農家との付き合いも何とかこなし、度胸と張ったりで牛の診療も、もはや口で治せる域に達しました。
私の毎日をご紹介します。

香田 彩見さん： H21年麻布大学を卒業し、兵庫県農業共済で働き2年目になります。兵庫県最北端、但馬牛生産の地で大動物獣医師として働いています。毎日、大自然とかわいい牛たちに囲まれて楽しく仕事をさせていただいております。一人前の大動物獣医目指して日々奮闘中。休日は、神戸や大阪に買い物に行ったり、趣味のダンスをしたりと、実は都会も大好き。仕事も遊びも全力投球です。

大矢 妙子さん： 一般診療で大阪府内の牧場と繁殖検診で全国各地の牧場を回っている「出張獣医」です。2年目なのでまだひよっこですが(^^;)、この仕事の面白さをみなさんにも知って頂けたらうれしいです！

牛のお医者さんの話を聞く機会は少ないので、男性も、ぜひどうぞ！

なお、講演会終了後、同じ場所で懇親会を企画しています

問い合わせは獣医微生物・田島まで

この催しは大阪府立大学女性研究者支援センターの援助を受けています。

牛でも招き猫・・

③　平成 23 年 12 月 5 日　中百舌鳥キャンパスにて

講師：Linda Reichl（テキサス大学オースチン校教授）

Xiaoqin Elaine Li（テキサス大学オースチン校准教授）

協力：本学理学系研究科　細越裕子教授（運営委員）　5 名参加

Li 准教授

Reichl 教授

（3）ロールモデル集の発行

本学の女性研究者を中心に掲載した。

① 第1集　平成24年1月24日発行

（4）地域との連携によるキャリアパス構築の検討

1）(株)さかい新事業創造センター（S-CUBE）との交流

平成 23 年 11 月 17 日　S-CUBE にて

実施者：田間泰子・巽真理子

起業家への支援を行っている第 3 セクターの S-CUBE のインキュベーションマネージャーや、堺市の担当者と意見交換を行った。

2）大阪府中小企業家同友会との交流

平成 23 年 11 月 21 日　オフィス長谷裕代にて

実施者：田間泰子・巽真理子

大阪府中小企業家同友会の女性部に所属する女性経営者と意見交換を行った。

（5）裾野拡大事業

1）理系女子大学院生チームのメンバー募集

裾野拡大事業への女子大学院生の主体的な参加と、理系女子大学院生間のネットワーク構築のため、理系女子大学院生チームのメンバーを募集した。

① 第一期生募集

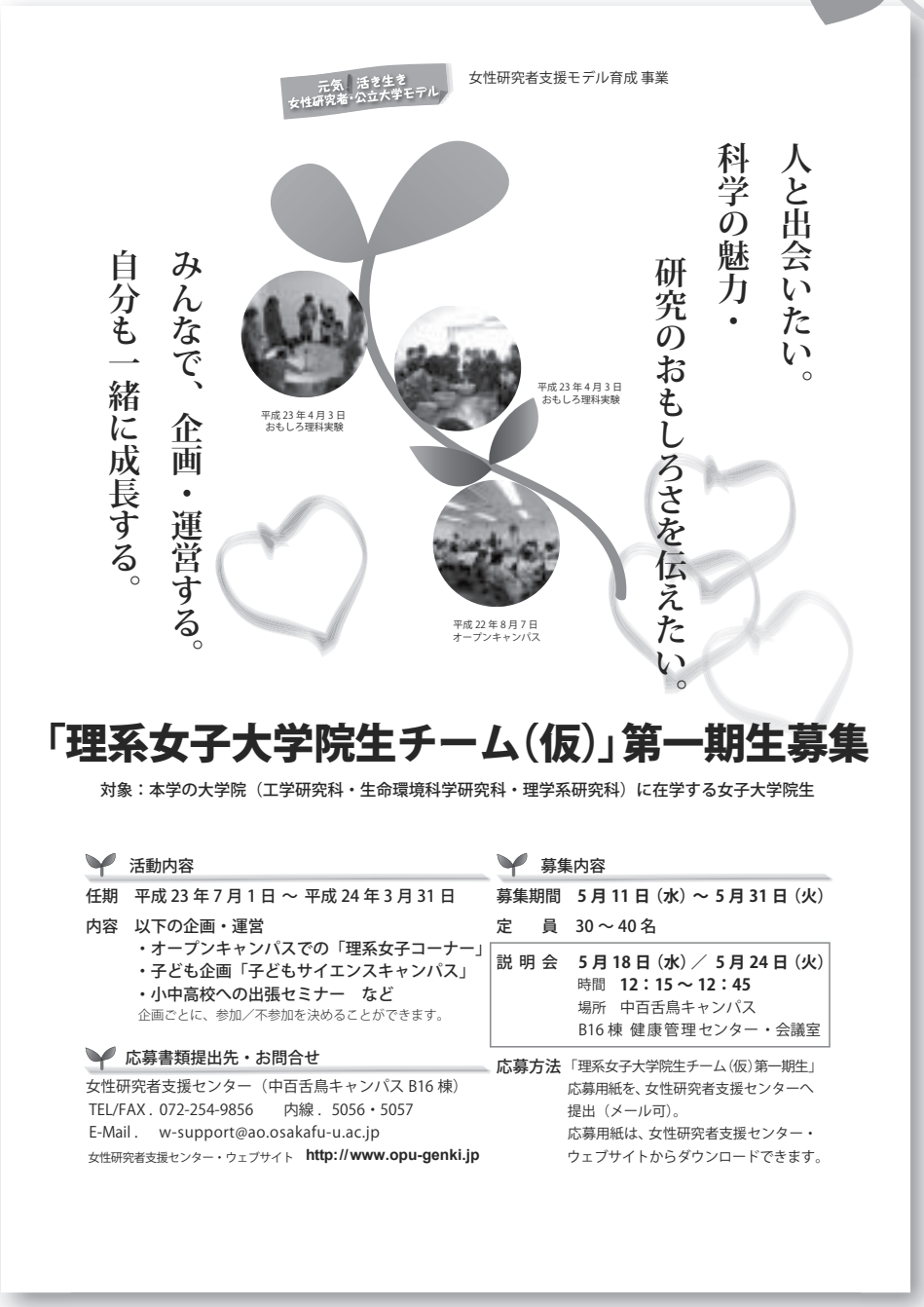
工学研究科、生命環境科学研究科、理学系研究科を対象に募集したところ 17 名の応募があり、審査の結果、全員を任命することになった。任命式では、奥野理事長より任命状を手渡した。

またメンバー間で話し合って、チーム名を IRIS（アイリス）とし、ロゴマークもメンバーが発案して決定した。

募　集	平成 23 年 5 月 11 日～ 5 月 31 日
	〈募集説明会〉
	5 月 17 日　りんくうキャンパス
	5 月 18 日・24 日　中百舌鳥キャンパス
審　査	平成 23 年 6 月 9 日
任　期	平成 23 年 7 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
任命式	平成 23 年 7 月 16 日
	中百舌鳥キャンパスにて

IRIS 任命式

IRIS ロゴ



元気！活き生き 女性研究者・公立大学モデル

女性研究者支援モデル育成 事業

人と出会いたい。
科学の魅力・
研究のおもしろさを伝えたい。

みんなで、企画・運営する。
自分も一緒に成長する。

平成 23 年 4 月 3 日
おもしろ理科実験

平成 23 年 4 月 3 日
おもしろ理科実験

平成 22 年 8 月 7 日
オープンキャンパス

「理系女子大学院生チーム（仮）」第一期生募集

対象：本学の大学院（工学研究科・生命環境科学研究科・理学系研究科）に在学する女子大学院生

活動内容

任期　平成 23 年 7 月 1 日 ～ 平成 24 年 3 月 31 日

内容　以下の企画・運営
・オープンキャンパスでの「理系女子コーナー」
・子ども企画「子どもサイエンスキャンパス」
・小中高校への出張セミナー　など
企画ごとに、参加／不参加を決めることができます。

応募書類提出先・お問合せ

女性研究者支援センター（中百舌鳥キャンパス B16 棟）
TEL/FAX．072-254-9856　　内線．5056・5057
E-Mail．　w-support@ao.osakafu-u.ac.jp
女性研究者支援センター・ウェブサイト　http://www.opu-genki.jp

募集内容

募集期間　5 月 11 日（水）～ 5 月 31 日（火）

定　　員　30 ～ 40 名

説 明 会　5 月 18 日（水）／ 5 月 24 日（火）
時間　12：15 ～ 12：45
場所　中百舌鳥キャンパス
B16 棟 健康管理センター・会議室

応募方法　「理系女子大学院生チーム（仮）第一期生」応募用紙を、女性研究者支援センターへ提出（メール可）。
応募用紙は、女性研究者支援センター・ウェブサイトからダウンロードできます。

② 第二期生募集

募　集	平成 24 年 3 月 22 日～ 4 月 25 日
審　査	平成 24 年 5 月上旬
任命式	平成 24 年 5 月中旬～下旬
任　期	平成 24 年 6 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

2）子どもサイエンスキャンパス

①「おもしろ理科実験」

平成 23 年 4 月 3 日

中百舌鳥キャンパス（花（さくら）まつり）にて　69 名参加

〈内容〉

▶ゆれの不思議であそぼう

▶不思議な粉であそぼう

▶パラボラ・アンテナであそぼう

▶ヨーヨーであそぼう

〈大学院生スタッフ〉

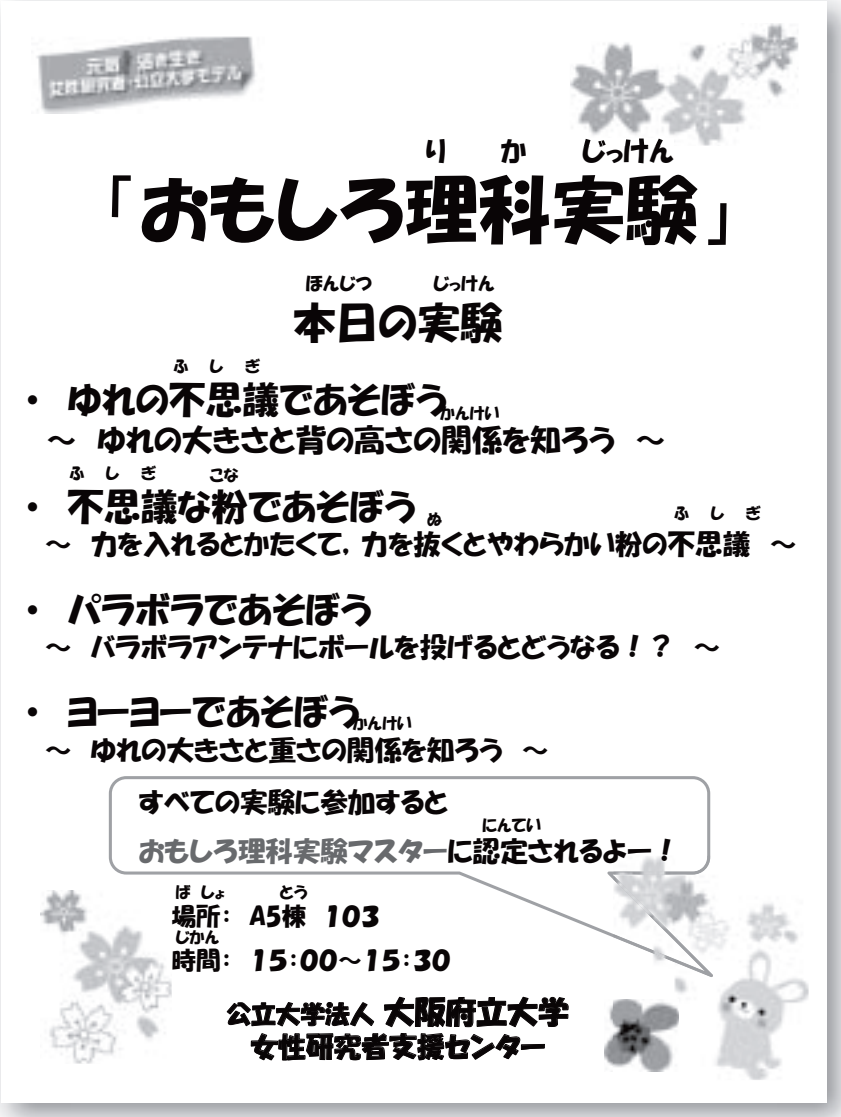
黒田桂菜・高井飛鳥（工学研究科）、西村幸芳・池田晴佳（生命環境科学研究科）、倉田愛代（理学系研究科）

不思議な粉であそぼう

パラボラ・アンテナであそぼう

参加記念メダル

スタッフ



元気 輝き生き
女性研究者・公立大学モデル

「おもしろ理科実験」

本日の実験

- **ゆれの不思議であそぼう**
  ～ ゆれの大きさと背の高さの関係を知ろう ～
- **不思議な粉であそぼう**
  ～ 力を入れるとかたくて，力を抜くとやわらかい粉の不思議 ～
- **パラボラであそぼう**
  ～ パラボラアンテナにボールを投げるとどうなる！？ ～
- **ヨーヨーであそぼう**
  ～ ゆれの大きさと重さの関係を知ろう ～

すべての実験に参加すると
おもしろ理科実験マスターに認定されるよー！

場所：A5棟 103
時間：15:00～15:30

公立大学法人 大阪府立大学
女性研究者支援センター

② 「子どもサイエンスキャンパス（大阪市立男女共同参画センター東部館（クレオ大阪東））」

平成 23 年 8 月 6 日　大阪市立男女共同参画センター東部館の「クレオ大阪東　夏まつり」にて 16 組 32 名参加

〈内容〉

▶ろうそくを作ろう

▶ペットボトルで簡単、浮沈子

〈学生スタッフ〉

ＩＲＩＳ：東垣由夏（理学系研究科）

補助員：岡勇喜（工学研究科）

荒木尊士（工学部）

③ 「子どもサイエンスキャンパス（中百舌鳥子ども会）」

平成 23 年 8 月 17 日　中百舌鳥キャンパスにて　52 名参加

〈内容〉

▶手作り顕微鏡で、色々なものをみてみよう

〈IRIS スタッフ〉

小森祐季・松本祐衣（工学研究科）、池田晴佳・中村智（生命環境科学研究科）、尾崎由季・武綾香（理学系研究科）

④ 「子どもサイエンスキャンパス（高石市立高石小学校）」

平成 23 年 10 月 29 日　高石小学校にて　30 名参加

〈内容〉

▶ペットボトル・ロケットを作って飛ばそう

〈学生スタッフ〉

ＩＲＩＳ：小森祐季・松本祐衣（工学研究科）、岩田典己・又野真実（理学系研究科）

補助員：中濱智博（工学研究科）、荒木尊士（工学部）

⑤ 「子どもサイエンスキャンパス（堺市教育委員会「サカイエンス」）」

平成 24 年 2 月 5 日　堺市教育文化センター（ソフィア堺）にて　689 名参加

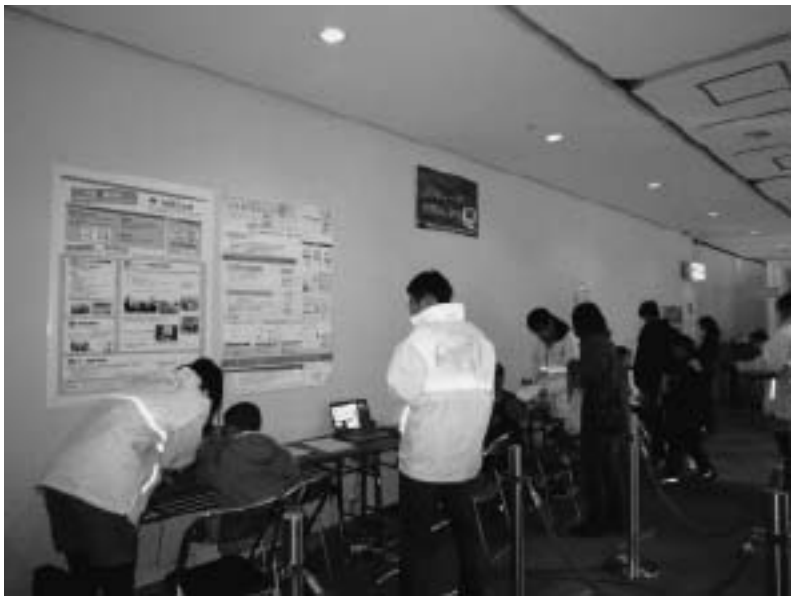
〈内容〉

▶コンピューターとお話ししよう！～ Pictgent ～

〈学生スタッフ〉

ＩＲＩＳ：上野未貴（工学研究科）

補助員：小森祐季・松本祐衣・福田清人・廣田健敏（工学研究科）



⑥ 「子どもサイエンスキャンパス（和泉市男女共同参画センター）」

平成 24 年 3 月 17 日　和泉市男女共同参画センターにて　18 組 38 名参加

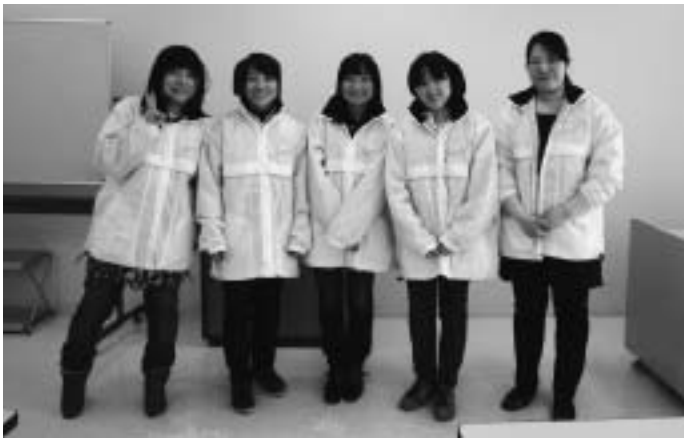
〈内容〉

▶おもしろ実験やってみよう　～ DNA を取り出そう！～

〈学生スタッフ〉

ＩＲＩＳ：黒田桂菜（工学研究科）、池田晴佳（生命環境科学研究科）、武綾香（理学系研究科）

補助員：西村未帆（生命環境科学研究科）



⑦「春休み！親子で楽しく科学実験教室」（寝屋川市男女共同参画センター（ふらっと寝屋川））

平成 24 年 3 月 27 日　寝屋川市男女共同参画センターにて　41 名参加

〈内容〉

▶霧箱を作って、放射線をみてみよう

〈IRIS スタッフ〉

岩佐亜有美（工学研究科）、谷彩夏（生命環境科学研究科）

3）オープンキャンパス「理系女子コーナー」

（平成 23 年 8 月 6 日・7 日　本学にて　153 名参加）

理系に進路を考えている女子高校生・受験生を対象に小グループでの懇談会形式で、IRIS のメンバーを中心とした懇談スタッフが自分の研究内容や大学生活について紹介し、高校生・受験生の質問に答えた。

また今年度の新しい試みとして、保護者向け企画も同時に実施した。ここでは、運営委員の女性研究者が、理系の女子大学生の大学での様子を伝えることで、男性の多い理系学部に娘を進学させることに不安を抱えている保護者に安心感を与えることができた。

また、事前の広報については、本学入試室と連携して実施した。

IRIS と女子高校生とのグループワーク

保護者向け企画

〈学生スタッフ〉

ＩＲＩＳ：岩佐亜有美・岩田典己・黒田桂奈・小森祐季・髙井飛鳥・松本祐衣（工学研究科）、池田晴佳・田中美有・中村智・西村幸芳（生命環境科学研究科）、蒲池沙織・尾崎由季・又野真実（理学系研究科）

懇談スタッフ：土居祥子（理学系研究科）、藤賀志央里（理学部）

補助員：中濱智博（工学研究科）、佐藤司・岡村啓太・山中智博・山田花（工学部）、大野綾子（生命環境科学部）、太田大介（経済学部）、仲谷健太郎（人間社会学部）

4）研究発表・交流

① ノートルダム清心学園・清心女子高校（以下、「清心女子高校」という）との交流

岡山県にある私立女子高校でスーパーサイエンスハイスクールの清心女子高校と、様々な形で交流を行った。

① 運営指導委員会

本学の女性研究者である田島朋子（生命環境科学研究科准教授）、中川智皓（工学研究科助教）、田間泰子（女性研究者支援センター長、人間社会学部教授）が運営指導委員となり、委員会における活動への助言や、英語ディベート指導等の研究交流を行った。

② 交流会 （平成 23 年 8 月 10 日　中百舌鳥キャンパスにて　40 名参加）

清心女子高校の生命科学コース 1・2 年生が本学を訪れ、本学の女性研究者、運営委員や IRIS との交流会を、本学の入試室、21 世紀科学研究機構（植物工場研究センター）、生命環境科学研究科と連携して行った。

なお、「IRIS との交流」の企画内容については、IRIS が研究科毎にペアを組んで提案し、実施した。

〈プログラム〉

12：00-12：40　昼食交流会

12：40-13：10　本学入試説明会

13：30-14：10　植物工場研究センターの見学

14：30-16：30　IRIS との交流

- 観察と実験（2 年生対象）「動物の病気と植物ウィルス」
  動物の病気標本の観察とアスパラガスの茎頂培養
- ワークショップ（1 年生対象）「未来新聞記者になろう！」
  IRIS の研究プレゼンテーションを聞いて、それぞれの研究が 20 年後にどのように発展すると思うかを想像して、壁新聞を作る。

〈実施者〉

教員：東優子（人間社会学部教授）、片岡道彦（運営委員、生命環境科学研究科教授）、田島朋子（生命環境科学研究科准教授）、中川智皓（工学研究科助教）、田間泰子（女性研究者支援センター長、人間社会学部教授）

IRIS：黒田桂菜・上野未貴（工学研究科）、田中美有・西村幸芳（生命環境科学研究科）

女性研究者支援センター

ランチ交流会

植物工場見学

観察と実験　動物の病気と植物ウィルス（2年生）

未来新聞記者になろう！（1年生）

③　研究交流（平成23年8月）

清心女子高校から、生命科学コース2年生が行っている植物実験について専門家からの助言を求められたので、運営委員を通して本学の研究者に依頼し、高校生への助言を行った。

〈実施者〉

小田雅行（生命環境科学研究科教授）、片岡道彦（運営委員、生命環境科学研究科教授）、女性研究者支援センター

④「集まれ！理系女子」科学研究発表交流会への参加

（平成23年10月29日　福山大学社会連携研究推進センターにて）

清心女子高校が主催する研究発表交流会に、ロールモデルとしてIRIS 2名が参加し、研究発表を行った。

〈実施者（IRIS）〉

田中美有（生命環境科学研究科）

口頭発表「ミエリン異常ミュータントVFラットの病理発生解析」

谷　彩夏（生命環境科学研究科）

ポスター発表「史料文献中の紅葉の記録を用いた京都の秋季気候復元」

② 研究ポスター発表 （平成 24 年 1 月 24 日　中百舌鳥キャンパスにて）

ロールモデル・セミナーと同時開催で IRIS の研究ポスター発表を行い、セミナーの講師や参加者（一般、本学教職員等）と交流した。

〈発表者（IRIS）〉

黒田桂菜・上野未貴（工学研究科）、谷彩夏（生命環境科学研究科）、東垣由夏（理学系研究科）

③ 「Women Pioneers DVD 鑑賞会・読書会」ゲストスピーカー

（平成 24 年 3 月 2 日　大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）にて）

大阪府が主催する、明治・大正生まれの女性先駆者のインタビューを収めた DVD の鑑賞会において、理系女性研究者である阿武喜美子をテーマにした「今昔・理系女子」に、現代の理系女性として IRIS が招かれ、IRIS の活動や自身の研究・学生生活について発表した。

〈発表者（IRIS）〉

黒田桂菜（工学研究科）

5）IRIS 講習会

メンバーのスキルアップとメンバー間の交流を目的として、講習会を実施した。

① 平成 23 年　9 月 15 日・22 日 「企画実施講習会」

中百舌鳥キャンパスにて　14 名参加

企画実施講習会

② 平成 23 年 12 月 12 日「講習会・交流会」

中百舌鳥キャンパスにて　9 名参加

講習会・交流会

研究交流ワークショップ

③　平成 24 年 1 月 26 日
「アサーショントレーニング入門」
「さかい男女共同参画週間」内で開催
（堺市協賛）
サンスクエア堺にて　19 名参加
（一般参加者を含む）

アサーショントレーニング入門

第 16 回さかい男女共同参画週間　学習グループ講座

アサーショントレーニング入門

～自己表現のコツ～

アサーションとは、自分も相手も大切にしたコミュニケーションの手法です。人間関係の TPO に合わせて自己主張や自己表現を行うコツを学びませんか？

上手に自己主張がしたい。

「NO」と言いたい。

気持ちを伝えたい。

講師：宮本由起代
（特定非営利活動法人
心のサポート・ステーション代表理事）

１９８７年関西発のフェミニストカウンセリング・ルームとして「こころの相談室マインド」を設立。１９９５年に「大阪心のサポートセンター」を設立、男女にフェミニストカウンセリングを提供してきた。２００３年「（特）心のサポート・ステーション」を立ち上げ、市民、行政、企業を対象に、講演・研修を実施。次世代育成にも取り組んでいる。現職の立場に、大学や公共機関でカウンセリングやハラスメント相談をしている。

平成２４年
１月２６日（木）
１４：００～１６：００

場所：サンスクエア堺
Ａ棟２階　研修室１

受講料　：無料
対象　　：学生、一般
定員　　：36 名

男子学生も参加可能です。
事前にお申し込みください。

◆アクセス
〒590-0014 大阪府堺市堺区田出井町２－１
サンスクエア堺　Ａ棟２階　研修室１
・JR 阪和線　「堺市駅」前　徒歩２分

◆お申し込み・お問い合せ：
電子メール・電話・FAX のいずれかで、名前日中連絡可能な電話番号・住所をご記入の上、平成２４年１月２４日（火）までに、下記までお申し込みください。

堺市市民人権局　男女共同参画推進課
TEL：072-228-7408
FAX：072-228-8070
E-MAIL：danjokyo@city.sakai.lg.jp

お申し込み時にいただきました個人情報は、本セミナー以外には使用しません。

［主　催］ 大阪府立大学　女性研究者支援センター
［協　賛］ 堺市

6）IRIS cafe （平成 23 年 12 月～　中百舌鳥キャンパスにて）

メンバーからの発案で、月 2 回程度、定期的に交流の場を持つことになった。呼びかけ人はメンバーが持ち回りで、自主的に行っている。メンバーの所属が中百舌鳥キャンパスとりんくうキャンパスに分かれているため、2 キャンパス間で交流できるよう、web カメラ付き PC を活用した。

平成 24 年 1 月 21 日には、中百舌鳥キャンパス所属のメンバーがりんくうキャンパスを訪問する「りんくうツアー」も実施し、研究室訪問や研究発表、ランチ・ミーティング等を行い、交流を深めた。

りんくうツアー

7）IRIS 活動報告会 （平成 24 年 3 月 5 日　中百舌鳥キャンパスにて　15 名参加）

今年度の活動内容について報告を行い、運営委員を初めとする本学教員から、今後の活動に向けてのアドバイスをもらった。

〈プログラム〉

16：00-16：50　IRIS 活動報告

16：50-17：10　自由討論

17：10-17：25　講評

片岡　道彦（運営委員、生命環境科学研究科教授）

細越　裕子（運営委員、理学系研究科教授、「女子中高生のための関西科学塾」実行委員）

恩田　真紀（理学系研究科准教授、「女子中高生のための関西科学塾」実行委員）

江副日出夫（運営委員、理学系研究科講師）

17：25-17：30　女性研究者支援センター長　挨拶

活動報告をする IRIS

講　評

8）IRIS 活動報告集の発行 （平成 24 年 3 月）

今年度の活動内容だけでなくメンバーの紹介を掲載することで、IRIS が中高校生や学部生にとっての身近なロールモデルとなるように作成した。

（6）若手研究者スキルアップ・セミナーの開催

（平成 24 年 3 月 13 日　中百舌鳥キャンパスにて　30 名参加）

若手女性研究者への支援策として、英語論文の執筆セミナーを行った。女性研究者および女子大学院生の参加を促すため、当初は女性研究者懇話会や IRIS に呼びかけて募集したが定員に達しなかったため、全学に対して男性も対象にして募集を行った。

若手研究者スキルアップセミナー

Author Workshop

～アクセプトされる論文とは～

グローバルに研究の場を広げていけるよう、科学英語論文執筆のスキルアップを目指すセミナーです。

対象
本学に在籍している
教職員、研究員、大学院生
（男性も可）
参加無料

セミナー
日時：平成24年3月13日（火）13:30～15:45
場所：大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス
A15棟 130教室
定員：30名
講師：Amanda Hindle（エダンズグループジャパン）
内容：科学論文執筆に関するコツの紹介
※理系の英語論文執筆経験のある方を対象とした内容です。

英文校正
セミナー後に、参加者が作成した英文abstract等を、メールで校正します。

お問合せ・お申込み
電子メール・ホームページの申し込みフォームのいずれかで、
①名前　②所属研究科・専攻名　③職位・学年　④日中連絡可能な電話番号（内線可）
をご記入の上、下記までお申し込みください。
申込〆切：3月9日（金）
※先着順に受付 / 定員になり次第締め切ります。
（お申し込み時にいただきました個人情報は、本セミナー以外には使用しません。）

大阪府立大学 女性研究者支援センター
【TEL】072-254-9856（内線5057 / 平日9:30～17:00）
【Mail】w-support@ao.osakafu-u.ac.jp
【URL】http://www.opu-genki.jp/

元気！活き生き 女性研究者・公立大学モデル
文部科学省　科学技術人材育成費「女性研究者支援モデル育成」事業

4．サポート基盤の整備

計画通り、在宅勤務支援のための情報機器としての web カメラ付パソコンの貸出や、女性研究者懇話会や IRIS、SNS 等の人的ネットワークの構築、女性研究者支援センター・ウェブサイト等での情報提供を行った（前述 1. ～ 3. 参照）。

Q Webカメラ付きパソコンを活用しようと思われたきっかけは?

A 産休を取る前に、女性研究者支援センター長より支援について説明を受けました。2人目の子どもが保育園の待機児童になり、思うように大学に行けなくなったため、使おうと思いました。現在は子どもが病気の時など、在宅で研究する時に、研究支援員の方とのやり取りに使っています。

Q 利用してのご感想は?

A（研究支援員の）松沢さんとのやり取りの中で、実際の実験内容や対象物を目で見ることができてとても便利です。使用頻度はそれほど多くはないのですが、目で確認できるので安心感があり、ないと困ります。画像がもっと鮮明だと、より良いですね。

Q これから出産される方へメッセージをいただけますか?

A 実験をおこなう方の場合、電話でのやり取りだけではできないことを補うことができて、役に立ちます。学生とのミーティングにも使えると思います。顔を見ながらだと、伝わる幅が広いと思います。

小菅先生（右）と松沢さん。右は使用のPC（B5サイズ程度）。

大学のシステムも便利に

●ポータルが自宅でも見られるようになりました（成績入力・シラバス入力）●教員はSSL-VPN　により、自宅から学内ネットワークへアクセスでき、図書館の文献検索・取り寄せなどもできます

「女性研究者支援センター　ニュースレターNo.3」より

5．地域連携

（1）大阪府との連携

① 平成23年７月14日　大阪府プラットフォームに参加
連携先：男女共同参画・府民協働課

② 平成23年11月21日　大阪府中小企業家同友会との交流（再掲、p.46参照）
連携先：男女共同参画・府民協働課

③ 平成24年３月２日　「Women Pioneers DVD 鑑賞会・読書会」ゲストスピーカー（再掲、p.59参照）
連携先：男女共同参画・府民協働課、財団法人大阪府男女共同参画推進財団

（2）堺市との連携

① 平成23年６月16日　男女共同参画推進課訪問

② 平成23年11月13日　デート DV 講演会に協力（再掲、p.24参照）
連携先：男女共同参画推進課

③ 平成23年11月17日　(株)さかい新事業創造センター（S-CUBE）との交流（再掲、p.46参照）
連携先：男女共同参画推進課、商工労働部ものづくり支援課

④ 平成24年１月26日　さかい男女共同参画週間において「アサーショントレーニング入門」を開催（再掲、p.61参照）
連携先：男女共同参画推進課

⑤ 平成24年２月５日　サかイエンスにおいて子どもサイエンスキャンパスを開催（再掲、p.53参照）
連携先：教育委員会

デート DV 講演会

（3）IRISによる地域連携

「子どもサイエンスキャンパス」を、地域と連携して開催した（再掲、p.50-55参照）。

① 平成23年８月６日　　大阪市男女共同参画センター東部館（クレオ大阪東）

② 平成23年８月17日　　中百舌鳥子ども会

③ 平成23年10月29日　　高石市立高石小学校

④ 平成24年３月17日　　和泉市男女共同参画センター

⑤ 平成24年３月27日　　寝屋川市立男女共同参画センター

6．保育園設置・運営（補助対象外事業）

平成23年4月1日に学内保育園「つばさ保育園」を開園した。これに伴い、保育園の所管部署を総務部総合調整室から総務人事課に移管した。また、運営は社会福祉法人コスモスに委託している。定員は10名で、平成24年3月1日現在の利用者数は、通常保育5名、一時保育登録11名である。当初の見込みよりも0歳児が多かったことと、園児のアレルギー対応のため、年度末には、空気清浄機設置等の環境整備を行った。

（1）保育施設運営委員会の設置と開催

学内保育園の開園に伴い、設置準備のために設置した「大阪府立大学事業所内保育施設開設準備委員会」を解散し、改めて「保育施設運営委員会」を設置した。この委員会では、保育園の運営についての検討や、利用希望者の審査・決定等を行った。

〈委員会の開催〉

第1回　平成23年6月13日
第2回　　9月28日
第3回　平成24年2月8日

（2）保育園オープニング式典・内覧会の開催（再掲、p.26-27参照）

平成23年4月3日　中百舌鳥キャンパス（花（さくら）まつり）にて　44名参加

〈オープニング式典〉

- 挨拶　　本　学：奥野理事長、堺市：竹山市長
- テープカット　本　学：奥野理事長、田間女性研究者支援センター長
　　堺　市：竹山市長
　　運営委託事業者（(社福）コスモス）：八田理事長

〈内覧会〉

本学教職員・学生を対象に、内覧会を行った。

＊運営委託事業者（(社福）コスモス）の協力により実施

つばさ保育園

7．インセンティブ制度（補助対象外事業）

（1）「世界に翔け！理系女子大学院生」表彰の開催

国際学会等への旅費等を補助し参加を促すことで、国際的に活躍する若手女性研究者を育成する目的で実施した。理事長、教育研究担当理事、運営委員からなる審査委員会を設置して審査を行った。また、最終審査は公開審査会として行った。当日は、学内の若手女性研究者にロールモデルとして、応募者のプレゼンテーションに対しての講評・アドバイスや自らの国際学会での体験談等を話してもらった。

なお、今年度に旅費等を補助した第１回（審査は昨年度実施）、第２回ともに、受賞者全員が予定通り国際会議に参加している。

元気 活き生き 女性研究者・公立大学モデル

科学技術システム改革事業　女性研究者支援モデル育成

平成 23 年度

「世界に翔け！理系女子大学院生」表彰
募集のお知らせ

本学の理系女子大学院生の国際的な研究活動を支援するために、国際会議等への旅費等の支援をします。
国際会議等で発表したい方、ぜひこの機会にご応募ください。

【対　　象】本学大学院、工学研究科・生命環境科学研究科・理学系研究科、生命環境科学部獣医学科の5､6年に在学する女性で、平成 23 年 9 月から平成 24 年 3 月までの国際会議等での発表を希望する者。
（既に発表申し込みを行った者、および申し込みを予定している者を含む）

【表彰の方法】表彰状の授与、及び以下の副賞。
①最優秀賞１名　国際会議の旅費および参加費の補助として１５万円
（旅費と参加費の実費額合計が１５万円以下の場合はその額）
②優秀賞　３名まで　国際会議の旅費および参加費の補助として各５万円
（旅費と参加費の実費額合計が５万円以下の場合はその額）

【審　　査】第一次審査：書類審査
最終審査　：公開選考会における英語によるプレゼンテーション審査
（平成 23 年 7 月 16 日（土）中百舌鳥キャンパスにて）

【応 募 方 法】平成２３年５月１１日（水）～ 平成２３年６月７日（火）（必着）
募集要項をご覧の上、応募書類を下記に提出してください。
募集要項と応募用紙は、女性研究者支援センター・ウェブサイトからダウンロードできます。

【応募書類提出先・お問合せ】女性研究者支援センター
中百舌鳥キャンパス B16 棟
TEL/FAX．072-254-9856　内線．5056・5057
E-Mail．　w-support@ao.osakafu-u.ac.jp

女性研究者支援センター・ウェブサイト　http://www.opu-genki.jp

〈対象者〉

支援対象期間に、工学研究科、生命環境科学研究科、理学系研究科、および生命環境科学部獣医学科5、6年生に在学する女性。

〈審　査〉

第一次審査　書類審査：審査委員と査読委員（学内の応募者と近い研究分野の教員へ依頼）

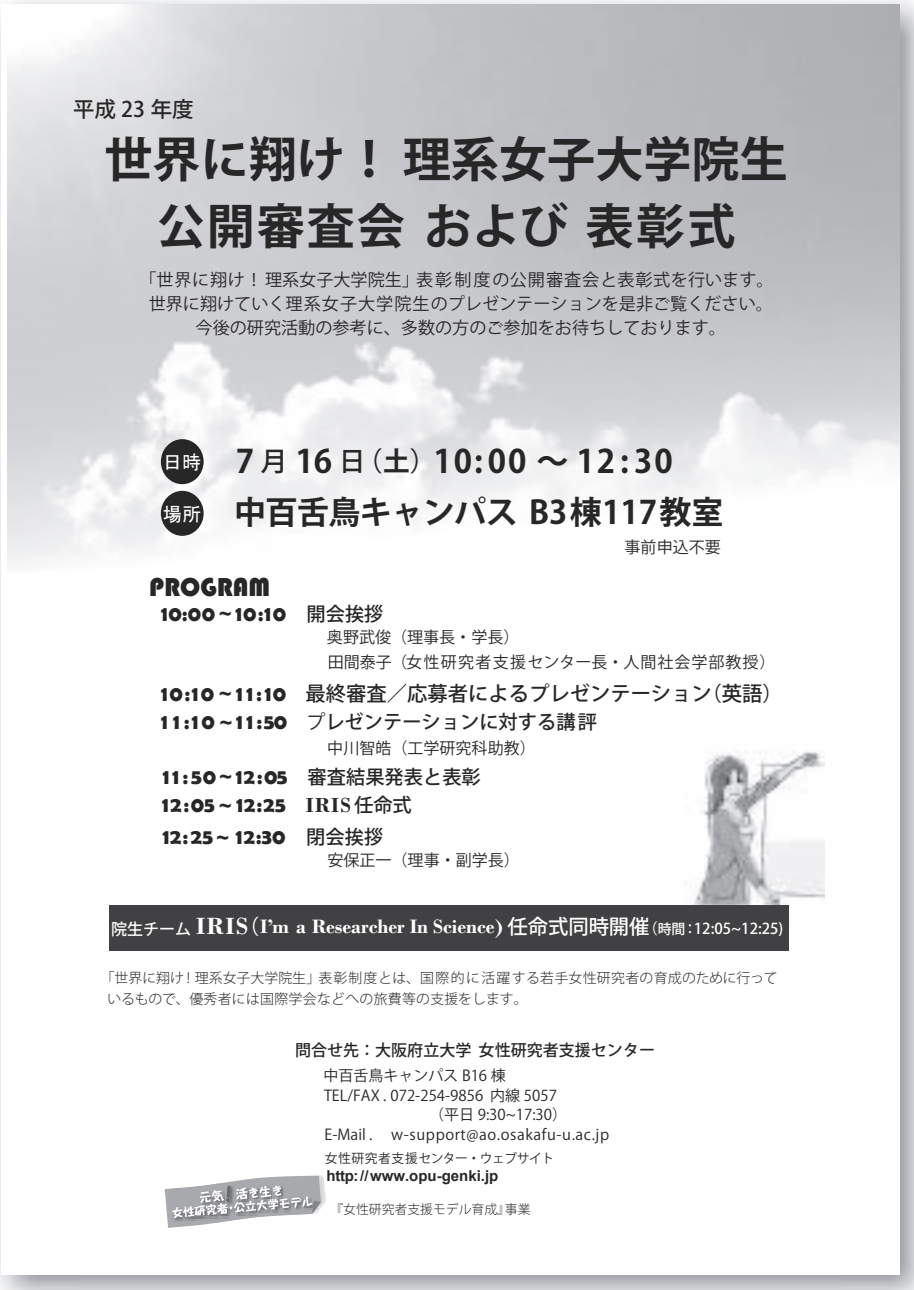
最 終 審 査　公開審査会における英語によるプレゼンテーション：審査委員

〈表　彰〉

表彰状を授与するとともに、副賞として以下の費用の補助を行う。

最優秀賞　国際会議の旅費および参加費の補助として15万円
（旅費と参加費の実費額合計が15万円以下の場合はその額）

優 秀 賞　国際会議の旅費および参加費の補助として各5万円
（旅費と参加費の実費額合計が5万円以下の場合はその額）



平成23年度

世界に翔け！ 理系女子大学院生
公開審査会 および 表彰式

「世界に翔け！ 理系女子大学院生」表彰制度の公開審査会と表彰式を行います。
世界に翔けていく理系女子大学院生のプレゼンテーションを是非ご覧ください。
今後の研究活動の参考に、多数の方のご参加をお待ちしております。

日時　7月16日（土）10:00 ～ 12:30
場所　中百舌鳥キャンパス B3棟117教室
事前申込不要

PROGRAM
10:00～10:10　開会挨拶
奥野武俊（理事長・学長）
田間泰子（女性研究者支援センター長・人間社会学部教授）
10:10～11:10　最終審査／応募者によるプレゼンテーション（英語）
11:10～11:50　プレゼンテーションに対する講評
中川智皓（工学研究科助教）
11:50～12:05　審査結果発表と表彰
12:05～12:25　IRIS任命式
12:25～12:30　閉会挨拶
安保正一（理事・副学長）

院生チーム IRIS（I'm a Researcher In Science）任命式同時開催（時間：12:05~12:25）

「世界に翔け！理系女子大学院生」表彰制度とは、国際的に活躍する若手女性研究者の育成のために行っているもので、優秀者には国際学会などへの旅費等の支援をします。

問合せ先：大阪府立大学 女性研究者支援センター
中百舌鳥キャンパス B16棟
TEL/FAX . 072-254-9856 内線 5057
（平日 9:30~17:30）
E-Mail . w-support@ao.osakafu-u.ac.jp
女性研究者支援センター・ウェブサイト
http://www.opu-genki.jp

元気 活を生き 女性研究者・公立大学モデル
『女性研究者支援モデル育成』事業

① 第2回

支援対象期間	平成23年9月1日～平成24年3月31日
募 集 期 間	平成23年5月11日～平成23年6月7日
表彰対象者数	最優秀賞　1名、優秀賞　3名まで
応 募 者 数	9名（工学研究科6名、生命環境科学研究科3名）
審 査 期 間	一次：平成23年6月7日～7月4日（4名まで絞り込み） 最終：平成23年7月16日
審 査 結 果	最優秀賞　ラジャ　ザヒラ　ラジャ モハマド　ラジー （工学研究科　博士後期課程3年） 優秀賞　上野未貴（工学研究科　博士前期課程2年） 大塚葉月（工学研究科　博士前期課程2年） 四良丸幸（生命環境科学研究科　博士課程4年）
講　評　者	中川智皓（工学研究科　助教）

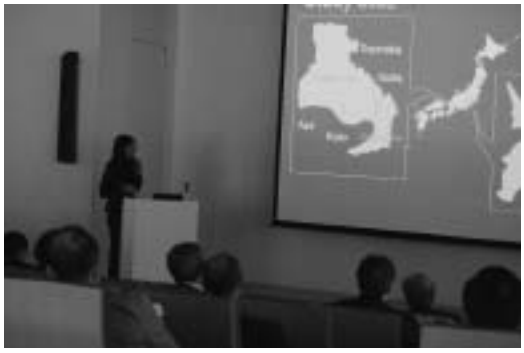
「第2回「世界に翔け！理系女子大学院生」表彰

表彰式

② 第3回

支援対象期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
募 集 期 間	平成23年10月12日～11月11日
表彰対象者数	最優秀賞　1名、優秀賞　5名まで
応 募 者 数	5名（工学研究科3名、生命環境科学研究科2名）
審 査 期 間	一次：平成23年11月14日～12月2日
	最終：平成24年1月18日
審 査 結 果	最優秀賞　坂本佳子（生命環境科学研究科　博士後期課程2年）
	優秀賞　小森祐希（工学研究科　博士前期課程1年）
	久米里奈（工学研究科　博士前期課程1年）
	山本朋依（工学研究科　博士前期課程1年）
	板垣芳（生命環境科学研究科　博士前期課程1年）
	講評者　楠川恵津子（工学研究科　助教）
	吉原静恵（理学系研究科　助教）

第3回「世界に翔け！理系女子大学院生」表彰



最終審査プレゼンテーション

審査委員と受賞者

８．プラスワン制度（女性研究者採用促進策）（補助対象外事業）

女性研究者の採用促進策として、今年度より「プラスワン制度」を設けた。この制度では、平成 23 年 4 月 1 日から平成 25 年 4 月 1 日に着任する予定の女性研究者（教員）を採用した研究科（工学研究科、生命環境科学研究科、理学系研究科）からの申し出により、採用した女性研究者 1 名につき、次のいずれかのインセンティブを付与することとしている。

- 助教（任期 5 年・再任可）の新規採用
- 女性研究者を採用した年度に採用する研究補助員または事務補助員の人件費の補助（上限 100 万円）

今年度は、平成 23 年 4 月に女性研究者 2 名を採用した工学研究科からの申請により、2 名の事務補助員の人件費を補助した。

9．学内アンケート結果

平成 23 年度

「大阪府立大学　教職員・院生支援のためのアンケート調査」

調査結果報告

大阪府立大学女性研究者支援センター　平成 24 年 2 月

【調査の概要】

調査目的：平成 23 年度女性研究者支援事業の目的達成度等について現状を把握し、次年度に、より効果的な支援事業を企画・実施するため。

調査対象：本学教員・職員（非常勤を含む）・大学院生等

配布期間：平成 24 年 1 月 17 日～ 20 日

配布数 3,372、有効回収数 1,108（32.9%）。

【調査結果】

Ⅰ　回答者の属性

〈回答者全体〉

- 回答者の性別は、女性が 36.0%、男性が 64.0%であり、男性が多い。
- 職種は、女性は職員が 58.0%と半数以上を占めており、次いで大学院生が 24.6%、教員は 14.3%である。男性では大学院生が 62.1%と多数を占め、次いで教員が 19.8%、職員が 16.4%である。
- 主として働く／学ぶキャンパスは、女性では 80.2%が中百舌鳥キャンパス、16.3%が羽曳野キャンパスである。男性は 96.0%が中百舌鳥キャンパスである。

〈職種別・性別〉

（1）教員

○回答者の傾向

- 教員 197 名の性別による内訳は、女性 57 名（28.9%）、男性 140 名（71.1%）と男性が約 7 割を占める。また、理系教員では 138 名のうち女性が 18 名（13.0%）で男性が 120 名（87.0%）と圧倒的に男性が多い。
- 女性教員 57 名のうち、約半数の 28 名（49.1%）は保健医療・看護学系の羽曳野キャンパスの教員である。

○母集団との比較

- 本学の教員総数は 728 名であり、そのうち女性 138 名（19.0%）、男性 590 名（81.0%）である。また理系教員総数は 454 名で、そのうち女性 30 名（6.6%）、男性 424 名（93.4%）である。
- 回答率は、女性教員 41.3%、男性教員 23.7%であり、男性教員の回答率が特に低い。理系だけでみると、理系女性教員の回答率は 60%と比較的高く、理系男性教員は 28.3%と低い。このため、本調査では、母集団よりも女性の割合が高くなっている。

（2）職員

○回答者の傾向

- 職員 347 名の性別による内訳は、女性 231 名（66.6%）、男性 116 名（33.4%）である。雇用形態別にみると、女性職員 231 名のうち常勤職員 38 名（16.5%）、非常勤職員は 192 名（83.1%）と非常勤職員が多数を占める。一方、男性職員では、116 名のうち常勤職員 69 名（59.5%）、非常勤職員は 46 名（39.7%）と常勤職員のほうが多い。

○母集団との比較

- 本学の職員数は 437 名であり、このうち女性が 231 名（52.9%）、男性が 206 名（47.1%）である。回答率は女性では 100%と全員に相当し、男性では 56.3%と半数程度である。

（3）大学院生

○回答者の傾向

- 大学院生 537 名のうち、女性が 98 名（18.2%）、男性が 439 名（81.8%）である。また、理系大学院生では、490 名のうち女性 69 名（14.1%）、男性は 421 名（85.9%）である。

○母集団との比較

- 本学の大学院生総数 1,723 名のうち、女性は 453 名（26.3%）、男性が 1,270 名（73.7%）で、それぞれの回答率は 21.6%、34.6%である。
- 理系大学院生は 1,254 名で、女性が 186 名（14.8%）、男性が 1,068 名で、回答率は女性が 37.1%、男性が 39.4%である。

〈昨年度調査との比較〉

- 昨年度調査と比較すると、女性・男性ともに大学院生の割合が増えているものの、その他はほぼ同傾向である。

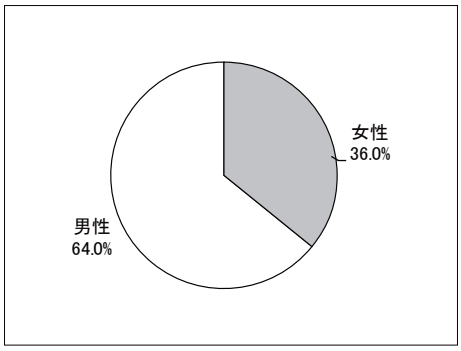


図 1　性別　（N ＝ 1,108）

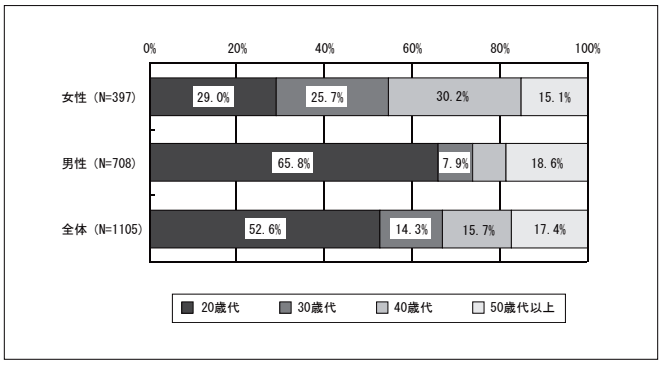


図 2　年齢

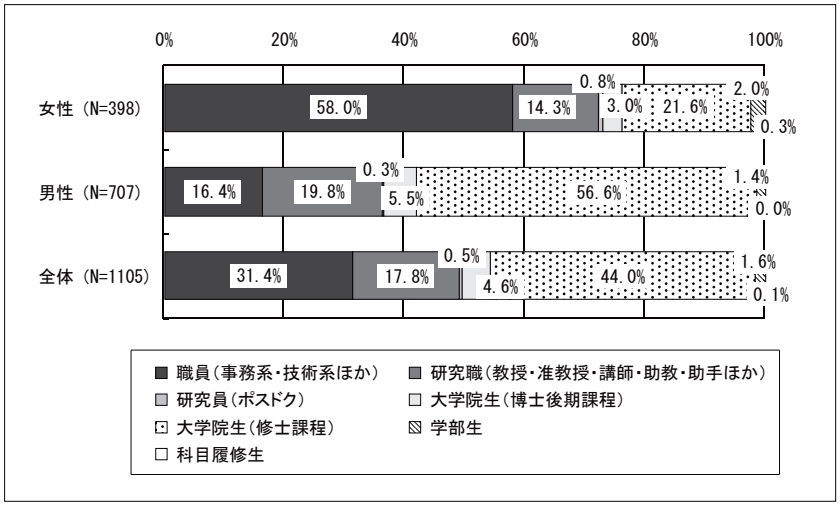


図３　職種

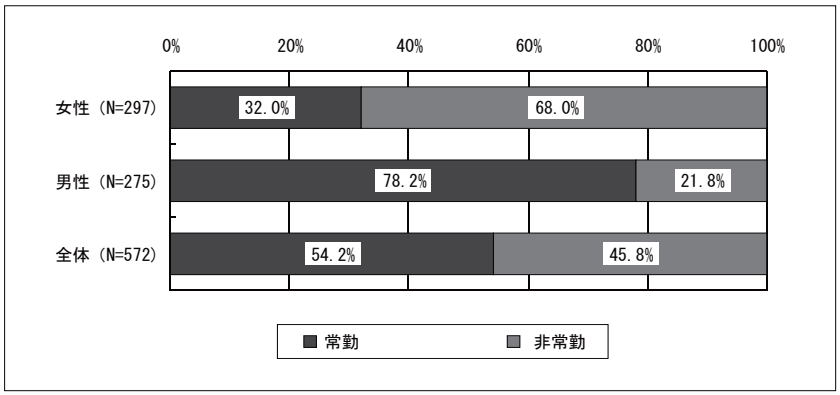


図４　雇用形態

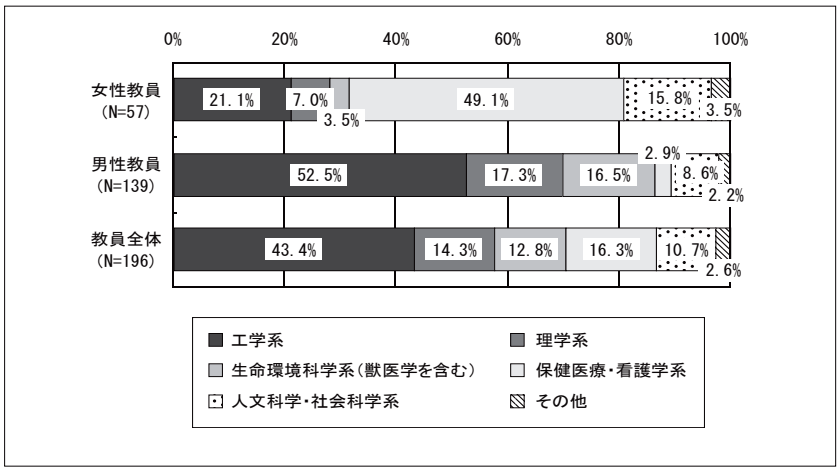


図５　専門分野（教員のみ）

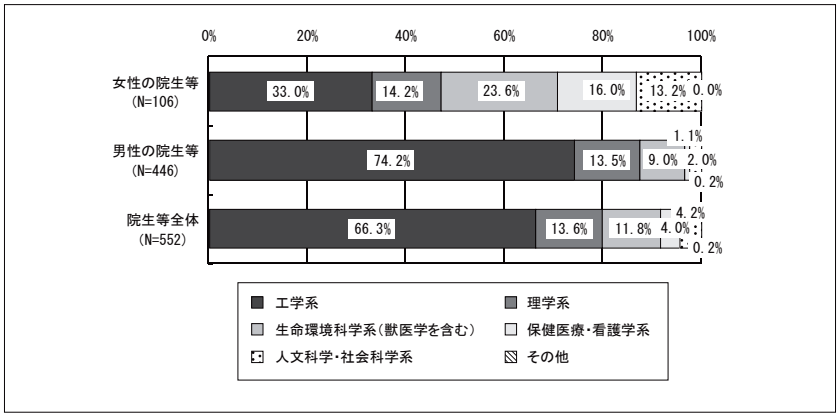


図6　専門分野（大学院生等のみ）

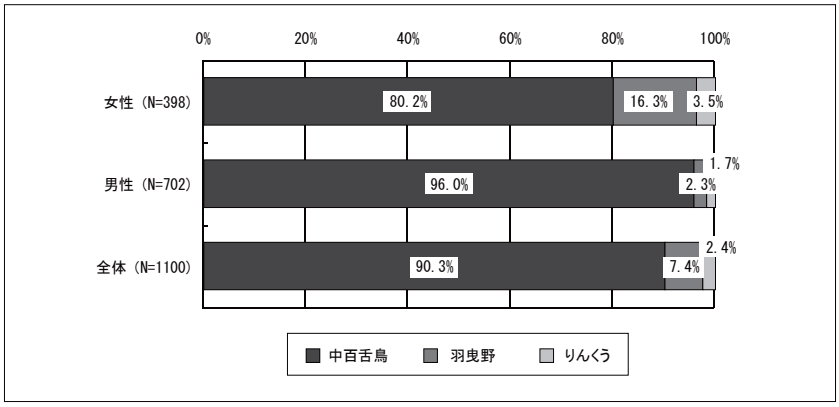


図7　主として働く／学ぶキャンパス

Ⅱ　事業・制度・方針等の認知度

1．大阪府立大学の方針・事業に関する認知度

〈回答者全体〉

回答者全体においては、「つばさ保育園」（学内保育園）の認知度（「よく知っている」または「ある程度知っている」と回答した割合）が83.0％と最も高く、次いで「女性研究者支援センター」が73.9％と高い。特に、「女性研究者支援センター」は昨年度調査における認知度48.3％と比較して25ポイント以上認知度が高まっている。しかし、「つばさ保育園」と「女性研究者支援センター」を除いては、いずれの項目も依然として認知度は50％未満にとどまっている。特に、本学の「多様な人材活用推進の基本方針」は19.5％と極めて認知度が低い（以下の分析では、回答者の実数の少ないカテゴリーを除く）。

〈職種別・雇用形態別・性別〉

（1）「女性研究者支援センター」

職種や性別にかかわらず、どの層にもよく知られている。男性の大学院生を除き、80～90％前後の高い認知度となっている。

（2）「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」

理系教員においては認知度が高く、特に理系女性教員では18人のうち17人に知られている。一方、非常勤職員と男性の大学院生の認知度は極めて低い。

表１　性別・職種別・雇用形態別　回答者数

女　性　※構成比は女性全体に対する％

		H22年度		H23年度	
職　員	常　勤	38	12.1%	38	9.5%
	非常勤	162	51.4%	192	48.1%
	無回答	2	0.6%	1	0.3%
	計	202	64.1%	231	57.9%
教　員	常　勤	45	14.3%	52	13.0%
	非常勤	1	0.3%	3	0.8%
	無回答	2	0.6%	2	0.5%
	計	48	15.2%	57	14.3%
大学院生	計	44	14.0%	98	24.6%
その他	計	11	3.5%	12	3.0%
無回答	計	10	3.2%	1	0.3%
計		315	100.0%	399	100.0%

男性　※構成比は男性全体に対する％

		H22年度		H23年度	
職　員	常　勤	52	9.5%	69	9.7%
	非常勤	49	9.0%	46	6.5%
	無回答	1	0.2%	1	0.1%
	計	102	18.7%	116	16.4%
教　員	常　勤	99	18.2%	134	18.9%
	非常勤	0	0.0%	4	0.6%
	無回答	3	0.6%	2	0.3%
	計	102	18.7%	140	19.7%
大学院生	計	309	56.7%	439	61.9%
その他	計	25	4.6%	12	1.7%
無回答	計	7	1.3%	2	0.3%
計		545	100.0%	709	100.0%

※「無回答」を含めた度数・構成比のため、図３・４のＮ値・構成比とは一致しない。

（3）「理系女子大学院生チーム IRIS」

対象となる女性の理系大学院生の認知度は 46.4%、理系教員においても認知度は男女ともに 50％前後にとどまっている。

（4）「世界に翔け！理系女子大学院生表彰制度」

対象となる女性の理系大学院生の 81.2%、理系教員の認知度も男女ともに 90%前後と高い。

（5）「子育て応援ピンバッジ・シール」キャンペーン

すべての教職員・学生を対象とした子育て支援に係る事業であるが、いずれの層においても認知度は低くあまり知られていない。

（6）「女性研究者支援センター相談窓口」

女性教員の 58.2%に知られているが、女性の大学院生では 36.7%にとどまっている。

（7）「女性の健康相談窓口」

女性教員は認知度 74.5%、女性職員では 59.6%と比較的よく知られているが、女性の大学院生では 34.7%とあまり知られていない。

（8）「女性研究者支援センターのニューズレター」（9）「女性研究者支援センターのウェブサイト」

女性研究者支援センターからの情報発信の重要な手段となるニューズレターやウェブサイトについては、理系の女性教員にはよく知られているが、非常勤職員においては認知度が 20 ～ 30％前後、大学院生においては 10 ～ 20％前後と低い。特に、ウェブサイトは教員全体でも 50％に満たない。これらの媒体を通じては、理系女性研究者だけでなく、教職員全体・大学院生等も対象とした取り組みの情報発信も行われているため、媒体そのものの認知度を高めていくことが、他の様々な取り組みの認知度向上のために重要である。

（10）「女性研究者支援センターが開催するセミナー」

教員と女性常勤職員にはよく知られている。特に、理系女性教員は 18 人のうち 17 人が知っている。しかし、非常勤職員と大学院生にはあまり知られておらず、特に男性の大学院生の認知度は低い。

（11）「つばさ保育園」（学内保育園）

女性研究者だけでなく、すべての教職員・学生のワーク・ライフ・バランス実現のための環境整備を目的とした女性研究者支援の代表的な事業であり、「女性研究者支援センター」と同じくいずれの層においてもよく知られている。

（12）「女性研究者懇話会」

理系だけでなく主に女性の教員・大学院生を対象とした事業で、理系女性教員にはよく知られているが、他の分野の女性教員や大学院生の認知度は低い。

（13）「本学の『多様な人材活用推進の基本方針」

理系女性教員には比較的よく知られているが、その他の層における認知度は極めて低い。

本事業においては、①理系分野での女性研究者・大学院生や学部生の活躍と増加を支援すること、②全学の構成員にとってワーク・ライフ・バランスを実現できる環境を整備すること、の大きく 2 つの目的がある。

第一の目的に沿った、理系女性研究者を対象とした取り組みについては、本調査結果から、ケース数は少ないものの理系女性教員への周知は一定の成果がみられた。一方で、女性の理系大学院生には十分には知られていないことから、今後は理系女性研究者の育成のためにも、特に女性の理系大学院生に焦点を当てた効果的な周知策を検討・実施していくことが重要な課題の一つとして挙げられる。

第二の目的に沿った、全学の構成員にとってワーク・ライフ・バランスを実現できる環境を整備していくための取り組みについては、職種や性別にかかわらず広く周知されることが望まれる。しかし、本調査結果をみると、「つばさ保育園」を除く各取り組みは、理系女性教員にはよく知られているものの、他の分野の女性教員や男性教員、職員、大学院生等には十分に周知されていないことがうかがえる。特に、非常勤職員と大学院生の認知度が低い。よって、今後は、特に認知度が低い層（非常勤職員、大学院生など）や、認知度の低い事業・方針（「『子育て応援ピンバッジ・シール』キャンペーン」「多様な人材活用推進の基本方針」など）に的を絞った効果的な周知策を検討・実施していくとともに、ニューズレターやウェブサイトなど情報発信のための媒体そのものの認知度を向上させていくことも重要な課題として挙げられる。

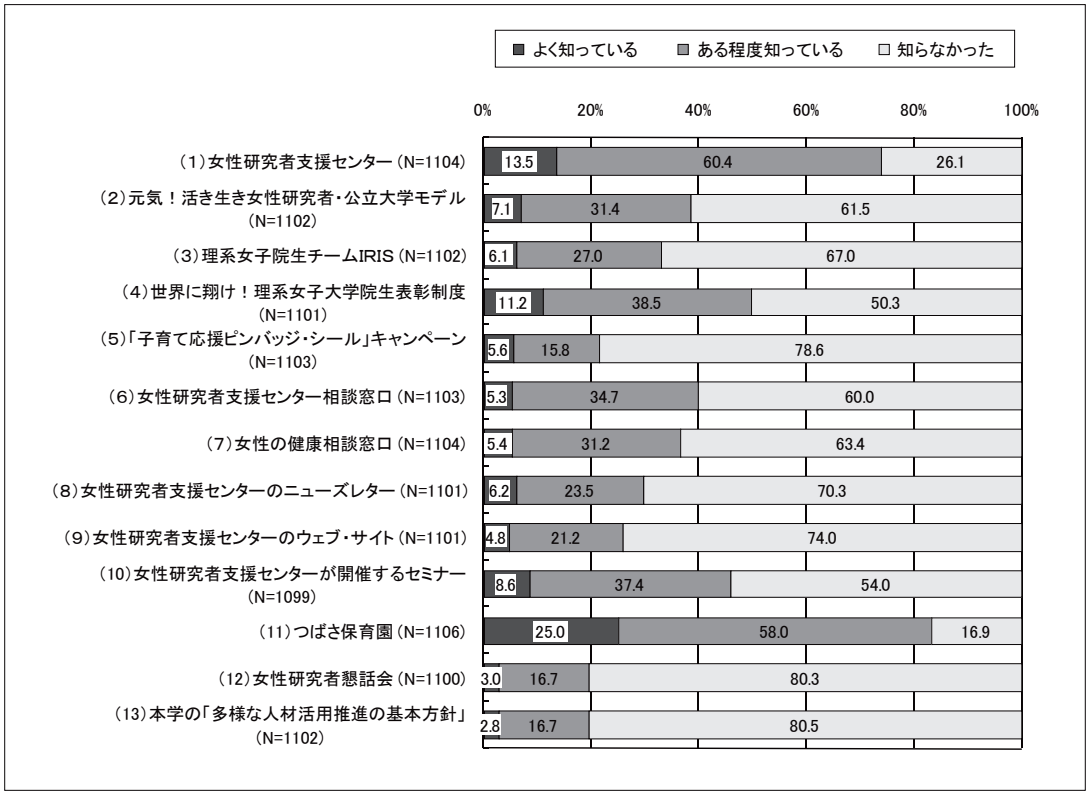
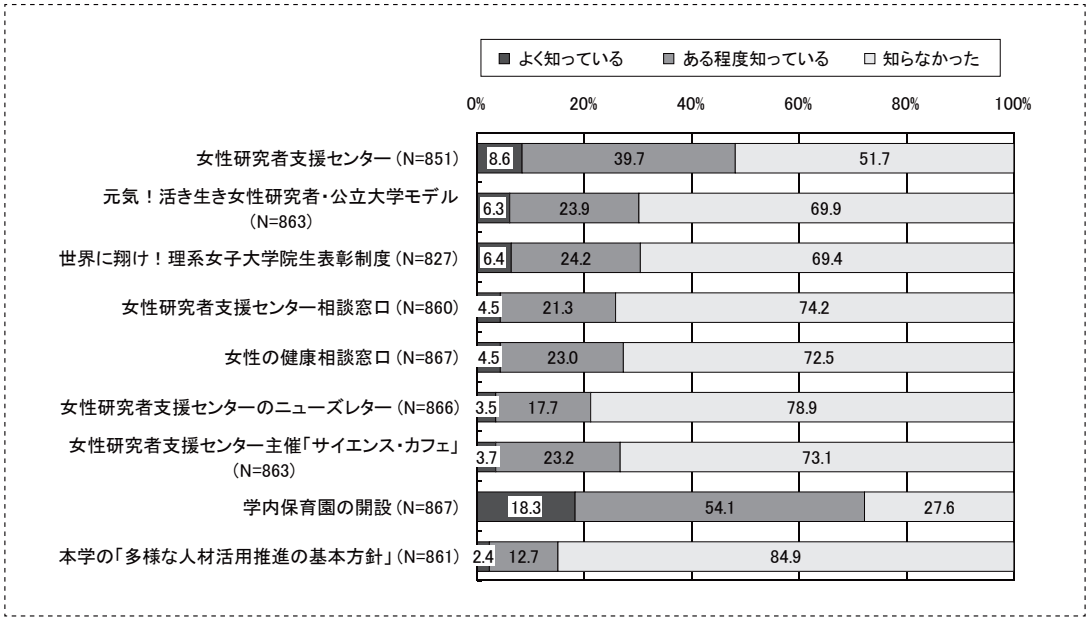


図 8　大阪府立大学の方針・事業に関する認知度



（参考図）大阪府立大学の方針・事業に関する認知度　平成 22 年度調査結果

表２　大阪府立大学の方針・事業に関する認知度（職種別・雇用形態別・性別）

		教員				職員						院生			
		女性		男性		女性			男性			女性		男性	
			理系		理系		常勤	非常勤		常勤	非常勤		理系		理系
		N=55	N=18	N=138	N=120	N=229	N=38	N=191	N=115	N=69	N=46	N=98	N=69	N=438	N=421
1	女性研究者支援センター	89.1	94.4	92.8	94.2	82.9	86.8	82.1	89.6	91.3	87.0	76.5	88.4	56.2	57.1
2	元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル	58.2	94.4	70.3	70.0	43.2	65.8	38.6	50.9	59.4	37.8	49.0	58.0	19.2	19.5
3	理系女子大学院生チームIRIS	41.8	50.0	55.1	55.0	35.4	47.4	33.0	46.1	50.7	39.1	41.8	46.4	18.0	18.3
4	世界に翔け！理系女子大学院生表彰制度	54.5	88.9	87.0	93.3	49.1	63.2	46.3	62.3	67.6	54.3	62.2	81.2	31.3	32.6
5	「子育て応援ピンバッジ・シール」キャンペーン	38.2	50.0	29.0	28.3	36.4	42.1	35.3	34.2	39.7	26.1	20.4	23.2	6.6	6.9
6	女性研究者支援センター相談窓口	58.2	72.2	56.5	54.2	47.4	50.0	46.8	60.0	66.7	50.0	36.7	40.6	24.7	24.6
7	女性の健康相談窓口	74.5	83.3	44.9	40.8	59.6	60.5	59.5	44.3	46.4	41.3	34.7	39.1	15.8	15.5
8	女性研究者支援センターのニューズレター	65.5	83.3	67.9	69.7	33.5	42.1	31.7	36.5	46.4	21.7	25.5	29.0	10.5	10.3
9	女性研究者支援センターのウェブ・サイト	45.5	77.8	44.2	45.8	38.1	52.6	35.1	39.1	46.4	28.3	23.5	24.6	9.4	8.8
10	女性研究者支援センターが開催するセミナー	76.4	94.4	80.4	83.3	59.8	88.9	54.3	50.4	62.3	32.6	43.9	52.2	24.0	23.8
11	つばさ保育園	87.3	100.0	95.7	95.0	86.9	94.7	85.3	91.3	95.7	84.8	75.5	89.9	76.5	77.9
12	女性研究者懇話会	52.7	77.8	32.1	30.0	24.2	28.9	23.3	17.5	19.1	15.2	29.6	31.9	8.7	8.8
13	本学の「多様な人材活用推進の基本方針」	34.5	61.1	37.7	34.2	14.5	27.0	12.1	32.2	31.9	32.6	14.3	17.4	12.6	12.6

※記載の数値は「よく知っている」または「ある程度知っている」と回答した割合(%)。

２．政府の政策および国連の取組みに関する認知度

〈回答者全体〉

回答者全体では、男女共同参画社会基本法と女性差別撤廃条約が比較的よく知られており、女性差別撤廃条約は昨年度と比較すると大幅に認知度が高まっている。とはいえ、認知度は 50 ～ 60%前後にとどまり、その他の政策については認知度が 20%前後と極めて低い。

〈職種別・雇用形態別・性別〉

非常勤職員と男性の大学院生においては特に認知度が低い。

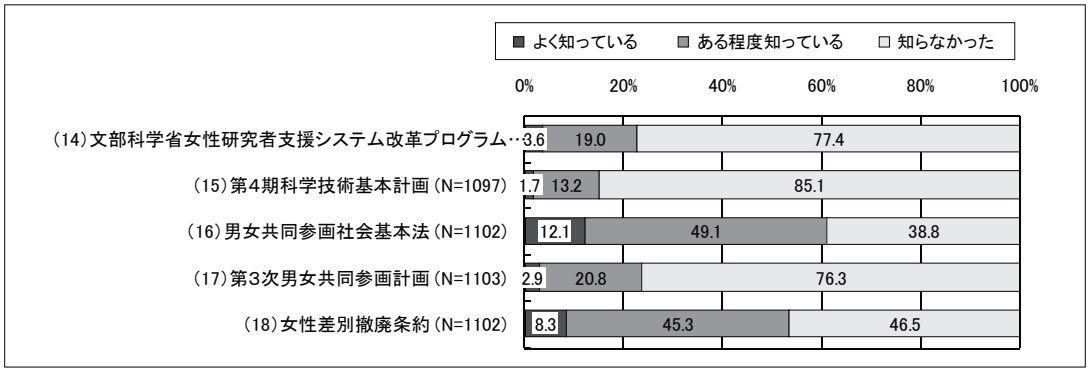
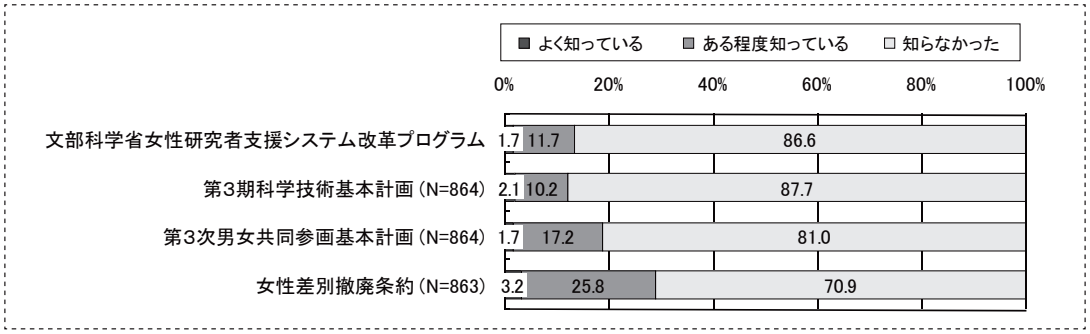


図９　政府の政策および国連の取組みに関する認知度



（参考図）政府の政策および国連の取組みに関する認知度　平成 22 年度調査結果

表３　政府の政策および国連の取組みに関する認知度（職種別・雇用形態別・性別）

		教員				職員						院生			
		女性		男性		女性			男性			女性		男性	
			理系		理系		常勤	非常勤		常勤	非常勤		理系		理系
		N=55	N=18	N=138	N=118	N=229	N=38	N=191	N=115	N=69	N=46	N=98	N=69	N=438	N=421
14	文部科学省女性研究者支援システム改革	47.3	61.1	45.7	46.7	21.1	36.8	18.0	34.2	39.7	26.1	21.4	27.5	10.1	10.0
15	第４期科学技術基本計画	29.6	52.9	44.9	48.3	10.6	26.3	7.4	24.3	27.5	19.6	5.1	5.8	6.2	6.0
16	男女共同参画社会基本法	90.7	88.2	76.6	76.7	40.1	65.8	34.9	68.7	72.5	63.0	70.4	71.0	58.1	57.7
17	第３次男女共同参画計画	50.9	55.6	44.9	43.3	19.4	42.1	14.8	40.9	40.6	41.3	23.5	21.7	11.6	11.0
18	女性差別撤廃条約	69.1	77.8	57.2	54.2	42.7	68.4	37.6	69.3	69.1	69.6	51.0	52.2	51.6	51.0

※記載の数値は「よく知っている」または「ある程度知っている」と回答した割合(%)。

３．大阪府立大学における理系女性研究者増加のための数値目標の認知度

〈回答者全体〉

回答者全体でみると、認知度は 26.0%であり、昨年度よりは 10 ポイント以上高くなっているものの依然として極めて低い。

〈職種別・雇用形態別・性別〉

教員・常勤職員では 40 ～ 50%と比較的高いが、それでも半数前後の人に知られておらず、より積極的な周知策が必要である。また、女性の非常勤職員および男性の大学院生においては 10 ～ 20%と極めて低く、これらの層にも情報が届くよう、全学的にさらなる周知が必要である。

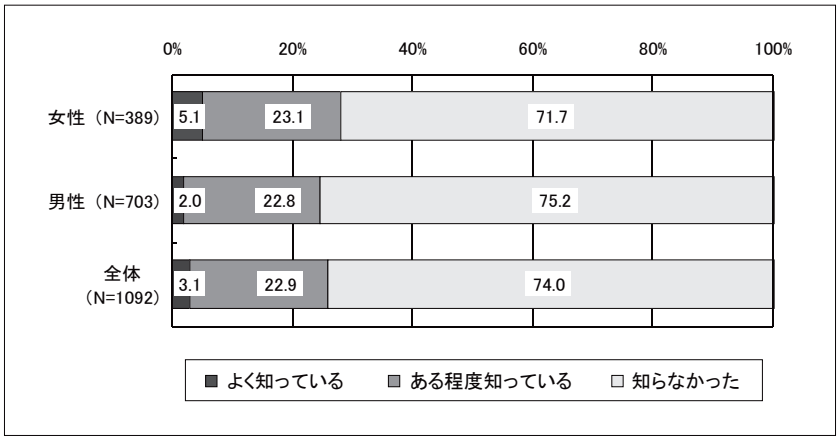
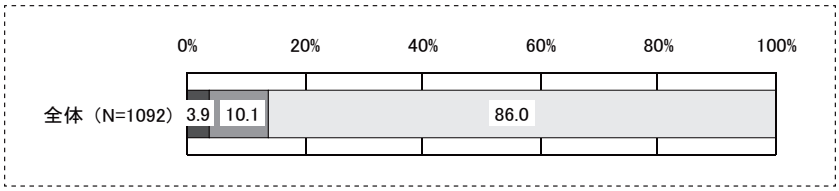


図 10　大阪府立大学における理系女性研究者増加のための数値目標の認知度



（参考図）大阪府立大学における理系女性研究者増加のための数値目標の認知度
平成 22 年度調査結果

表４　大阪府立大学における理系女性研究者増加のための数値目標の認知度（職種別・雇用形態別・性別）

	教員				職員						院生			
	女性		男性		女性			男性			女性		男性	
		理系		理系		常勤	非常勤		常勤	非常勤		理系		理系
	N=55	N=18	N=138	N=118	N=229	N=38	N=191	N=115	N=69	N=46	N=98	N=69	N=438	N=421
理系女性研究者増加のための数値目標	50.0	77.8	57.4	57.6	21.6	42.1	17.4	42.6	47.8	34.8	26.5	31.9	10.1	10.0

※記載の数値は「よく知っている」または「ある程度知っている」と回答した割合(%)。

Ⅲ　支援ニーズ

〈回答者全体〉

「あれば良いと思う支援」としては、産前産後や乳幼児、要介護者がいる場合の「勤務時間や授業担当への配慮」「研究補助員・事務補助員の配置」「在宅勤務への配慮」など勤務体制に係る支援と、「仕事・研究と家庭責任の両立のための相談窓口」の選択率が高い。

「あれば利用する支援」としても、同様に、産前産後や乳幼児、要介護者がいる場合の「勤務時間や授業担当への配慮」「研究補助員・事務補助員の配置」「在宅勤務への配慮」など勤務体制に係る支援のニーズが高い。次いで、「土日祝も保育を行う保育室」「学童保育サービス」といった保育に係るサービスが多く選択されている。

〈職種別・雇用形態別・性別〉

（1）「仕事・研究と家庭責任の両立のための相談窓口」

「あれば良いと思う支援」としては、職種・性別にかかわらず選択率は 60 ～ 70%と高い。「あれば利用する支援」としては、女性教員で 26.4%と 4 人に 1 人が選択しており、実数は少ないもののニーズは高い。

（2）「女性研究者のキャリアのためのメンター制度」

「あれば良いと思う支援」としては女性教員と女性常勤職員には 60%以上の高い選択率となっている。その他の層では 40 ～ 50%前後の選択率である。「あれば利用する支援」としては、女性教員で 15.1%、女性の大学院生で 11.5%と若干のニーズがある。

（3）「女性研究者のネットワークのための SNS」

「あれば良いと思う支援」としては女性教員、女性職員、女性大学院生で 50%前後の割合で選択されている。「あれば利用する支援」としては、理系女性教員が 23.5%、理系女性大学院生が 25.4%と、これもケース数は少ないものの 4 人に 1 人が選択しており、理系女性研究者・大学院生からのニーズは高い。

（4）「勤務時間や授業担当への配慮」（5）「研究補助員・事務補助員の配置」（6）「在宅勤務への配慮」

この 3 項目は、職種・性別にかかわらず、「あれば良いと思う支援」「あれば利用する支援」のどちらとしても選択率が高い。「あれば利用する支援」としては、特に女性教員の選択率は 30%台後半でニーズが高い。また、ケース数の多い女性職員、男性教員、女性大学院生からも 20%前後の割合で選択されていることから、最も多数の人から望まれている支援といえる。

（7）「オムツをかえることができるトイレ」（8）「授乳や搾乳等ができるスペース」

「あれば良いと思う支援」としては、いずれの層においても 50 ～ 60%前後の高い選択率である。「あれば利用する支援」としては、女性の大学院生においてそれぞれ 14.6%、13.5%と若干のニーズがある。

（9）「土日祝も保育を行う保育室」（10）「学童保育サービス」

「あれば良いと思う支援」としては、女性教員で70％以上の高い選択率となっている。その他の層においても、50 ～ 60％前後の割合で選択されている。また、「あれば利用する支援」としては、女性教員と女性大学院生からは15％前後、男性教員と女性職員、男性の大学院生からは10％前後の割合で選択されており、比較的ニーズは高い。

（11）「学外での保育にかかわるサービスへの支援」

「あれば良いと思う支援」としては女性教員で60.4％と選択率が高く、その他の層でも40 ～ 50％の割合で選択されている。「あれば利用する支援」としては、女性教員と女性職員、男女の大学院生で10％前後の選択率で比較的ニーズが高い。

以上から、支援ニーズとしては、産前産後や乳幼児、要介護者がいる場合の勤務体制に係る支援や仕事・研究と家庭責任の両立のための相談窓口、保育サービスに係る支援など、ワーク・ライフ・バランス実現のための環境整備がいずれの回答者からも望まれていることがわかる。

また同時に、女性教員・大学院生からは、ネットワークのためのSNS、キャリアのためのメンター制度など女性研究者に特化した支援も少なからずニーズがあり、特にネットワークのためのSNSは理系女性教員・理系女性大学院生のおよそ4人に1人が「あれば利用する」と回答しており、今後の支援や情報発信・ネットワーキングの手段として高い可能性を持つと期待される。

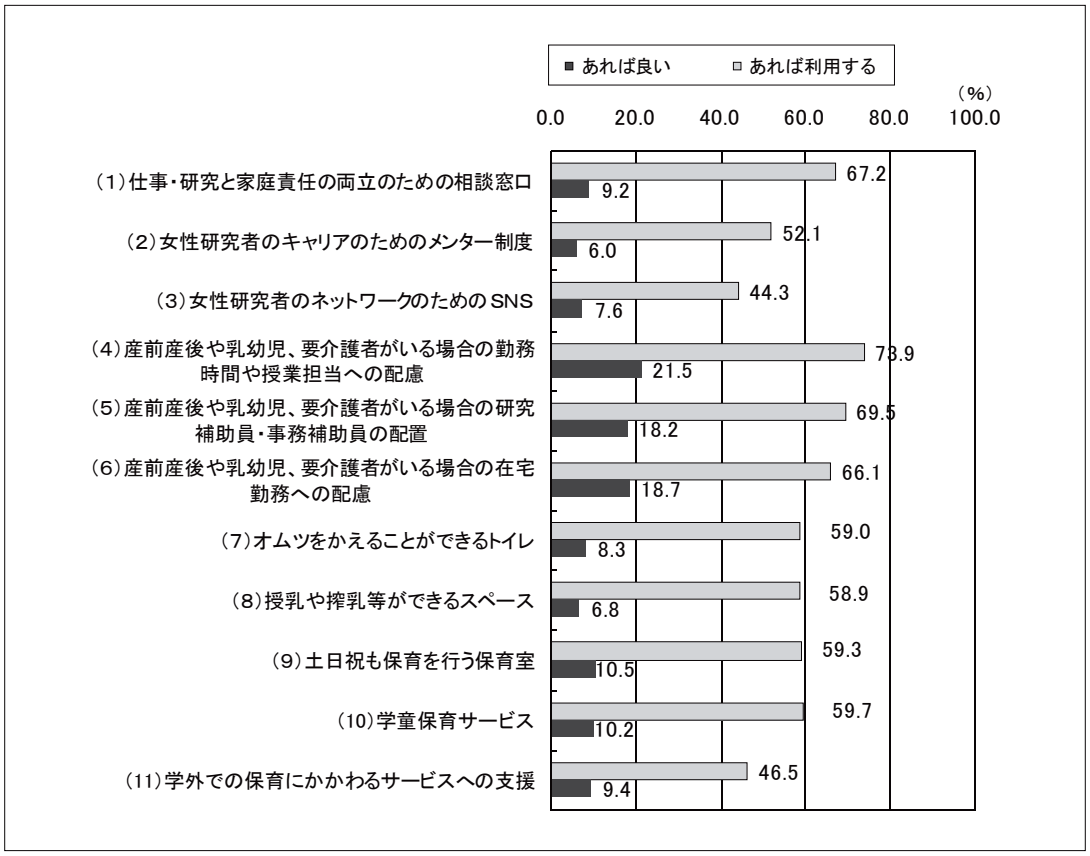


図11　あれば良いと思う支援／あれば利用する支援

表５　あれば良いと思う支援（職種別・雇用形態別・性別）

		教員				職員						院生			
		女性		男性		女性			男性			女性		男性	
			理系		理系		常勤	非常勤		常勤	非常勤		理系		理系
		N=55	N=18	N=138	N=120	N=229	N=38	N=191	N=115	N=69	N=46	N=98	N=69	N=438	N=421
1	仕事・研究と家庭責任の両立のための相談窓口	62.3	64.7	71.0	68.1	67.0	71.4	66.1	64.6	62.9	67.6	66.7	64.2	68.3	68.3
2	女性研究者のキャリアのためのメンター制度	62.3	64.7	55.7	53.4	56.1	62.9	54.8	43.4	41.9	45.9	52.1	41.8	49.9	49.3
3	女性研究者のネットワークのためのSNS	47.2	47.1	39.7	36.2	49.5	45.7	50.3	39.4	35.5	45.9	51.0	44.8	43.1	42.5
4	産前産後や乳幼児、要介護者がいる場合の勤務時間や授業担当への配慮	69.8	52.9	76.3	75.0	73.1	65.7	74.6	75.8	72.6	81.1	68.8	68.7	75.9	76.8
5	産前産後や乳幼児、要介護者がいる場合の研究補助員・事務補助員の配置	66.0	58.8	71.0	72.4	71.7	71.4	71.8	73.7	71.0	78.4	62.5	64.2	70.0	70.1
6	産前産後や乳幼児、要介護者がいる場合の在宅勤務への配慮	60.4	47.1	69.5	69.8	63.7	57.1	65.0	71.7	67.7	78.4	65.6	68.7	66.4	66.6
7	オムツをかえることができるトイレ	66.0	76.5	58.0	53.4	57.5	48.6	59.3	54.5	51.6	59.5	61.5	55.2	59.4	58.9
8	授乳や搾乳等ができるスペース	69.8	76.5	55.7	51.7	58.5	57.1	58.8	56.6	50.0	67.6	60.4	53.7	58.5	58.1
9	土日祝も保育を行う保育室	75.5	76.5	60.3	60.3	55.2	45.7	57.1	49.5	48.4	51.4	63.5	59.7	60.5	60.1
10	学童保育サービス	73.6	64.7	64.1	62.1	62.3	54.3	63.8	48.5	41.9	59.5	63.5	59.7	56.9	56.3
11	学外での保育にかかわるサービスへの支援	60.4	52.9	48.1	46.6	48.1	37.1	50.3	39.4	33.9	48.6	53.1	44.8	43.7	43.1

※記載の数値は、それぞれの項目を選択した回答者の割合(%)。

表６　あれば利用する支援（職種別・雇用形態別・性別）

		教員				職員						院生			
		女性		男性		女性			男性			女性		男性	
			理系		理系		常勤	非常勤		常勤	非常勤		理系		理系
		N=55	N=18	N=138	N=120	N=229	N=38	N=191	N=115	N=69	N=46	N=98	N=69	N=438	N=421
1	仕事・研究と家庭責任の両立のための相談窓口	26.4	29.4	3.8	4.3	9.9	14.3	9.0	3.0	3.2	2.7	8.3	6.0	10.4	10.0
2	女性研究者のキャリアのためのメンター制度	15.1	17.6	0.8	0.9	4.2	2.9	4.5	2.0	3.2	0.0	11.5	13.4	7.6	7.6
3	女性研究者のネットワークのためのＳＮＳ	13.2	23.5	0.0	0.0	3.8	0.0	4.5	2.0	3.2	0.0	20.8	25.4	9.8	9.7
4	産前産後や乳幼児、要介護者がいる場合の勤務時間や授業担当への配慮	37.7	47.1	24.4	25.9	24.5	31.4	23.2	15.2	19.4	8.1	29.2	29.9	15.1	13.8
5	産前産後や乳幼児、要介護者がいる場合の研究補助員・事務補助員の配置	39.6	47.1	19.8	20.7	18.4	20.0	18.1	10.1	12.9	5.4	22.9	20.9	14.6	13.5
6	産前産後や乳幼児、要介護者がいる場合の在宅勤務への配慮	35.8	47.1	19.1	19.0	20.3	31.4	18.1	12.1	16.1	5.4	24.0	22.4	15.4	14.1
7	オムツをかえることができるトイレ	7.5	17.6	6.9	6.9	7.5	2.9	8.5	3.0	4.8	0.0	14.6	16.4	9.0	8.2
8	授乳や搾乳等ができるスペース	11.3	23.5	3.1	2.6	7.5	2.9	8.5	1.0	1.6	0.0	13.5	14.9	6.4	5.9
9	土日祝も保育を行う保育室	13.2	17.6	10.7	11.2	8.5	5.7	9.0	4.0	4.8	2.7	18.8	20.9	10.6	10.0
10	学童保育サービス	17.0	23.5	9.2	9.5	9.9	5.7	10.7	4.0	6.5	0.0	14.6	14.9	10.4	9.7
11	学外での保育にかかわるサービスへの支援	13.2	17.6	7.6	7.8	9.9	8.6	10.2	3.0	4.8	0.0	12.5	13.4	10.1	9.7

※記載の数値は、それぞれの項目を選択した回答者の割合(%)。

Ⅲ．外部評価

「元気！ 活き生き女性研究者・公立大学モデル」

外部評価委員会

平成 23 年度

Ⅰ．評価委員について

お　名　前	稲葉　カヨ
ご　所　属	京都大学・生命科学研究科
評価記入年月日	平成24年 3 月20日

Ⅱ．総合評価

S：特に優秀　A：優　B：良　C：可　D：不可　X：不明

評　　価	B

評価理由

女性研究者への支援は、まず環境整備が重要との視点から、研究支援員の配置、相談窓口の開設、研究意欲の向上を目指した女子大学院生の顕彰などが行われており、着実に実績を上げてきている。とりわけ、自己経費における保育所開設は、考慮された料金が設定されるなど、綿密に計画・運営されている点が評価できる。

裾野拡大においては、女子大学院生の「IRIS」としての組織化が行われ、積極的に活動している。ただ、この活動が裾野拡大の実績としてどのように現れるのかについては、かなりの時間が必要である。

キャリアパス構築支援としてのロールモデル・セミナーの開催も行われているが、参加者を増やす努力が必要である。しかし、発行されたロールモデル集は学内外において有効に活用されている。一方、ロールモデル・バンクについては、今後登録者を増やす努力が望まれるものの、これを将来どのように活用していこうとするのかが明確ではない。

全学的意識改革は、アンケート調査を行いつつ浸透を図っているが、未だ十分とは言い難いものの徐々に進みつつあるように見受けられる。しかし、子育て応援ピンバッジ・キャンペーンや「会議は 17 時まで」キャンペーンを実施するなど、積極的な取り組みが見られる。

本事業も 2 年目になり、各種事業実施のための大学事務および関係部局との連携も進みつつあり、改善が認められる。また、本事業推進のための運営委員会の拡充とステアリング委員会早期統合がなされている。今後、両委員会の連携を密にして一層の機動性向上が望まれる。とりわけ、ステアリング委員会においては、財政状況を見極める必要はあるものの、短期間に成果が顕在化する事業ではないことを念頭に、精査の結果必要と認められる事業の継続を考えて頂きたい。

Ⅲ．所見

◆限られた予算の中事業が盛りだくさんであり、本事業期間中はともかく、終了時の資金計画を考え、継続すべき事業の洗い出しをすることが望まれる。財政状況にも目を配りつつ、予算措置の可能性を考え始める時期にきている。

◆ミッションステートメントとして上げられている女性教員比率8%に対して、2名の新規採用があったが、1名が転出し、母数となる教員数が増加したので、0.1%の減となり、その結果5.9%とある。しかも、女性教員を採用した場合のインセンティブが設けられているにもかかわらず、利用されたのは工学研究科における2件でしかなかったとある。つまり、人事案件数に対して、女性教員採用比率が低いことを意味している。部局毎の女性研究者の応募状況を調査し、応募者が少ない場合にはそれを増やす工夫が必要ではないか。最終年度後の評価の際には、数値目標の達成が評価項目の中で重要視される傾向があるが、大学としての改善姿勢を示すことも重要であることを考慮すると、これらの数値を把握しておくことが実績報告書の作成に役立つと思われる。また、採用だけでなく、昇任案件や転出先等の情報管理も有効かも知れない。これに関しては、人事でもあることから、大学本部および部局事務との連携強化が望まれる。

◆現状に則し、更に最終の平成24年度には府財政による定員削減計画や組織改編の事情を考慮すると、ミッションステートメントの数値目標の達成は不可能と考えざるを得ない。確かに、大学における女性研究者増へ繋げるには、理工農系への女子学生の進学率を高めることが長期的には必要不可欠ではある。しかし、定員管理も厳しくなっていることを考慮すると、致し方ないことでもある。事業終了時のみを考えるのではなく、長期的視点に立って、進めざるを得ないと思われる。

◆キャリアパスあるいはロールモデルとして、卒業生が企業で活躍するシーンを見せることも意味あることと思われる。とりわけ、「生活感のある女性研究者による商品開発」など、世の中が、企業が、女性研究者を求めている！的な啓蒙は、企業にとってもプラスとなり、企業との連携が深まる可能性もある。また、進路を検討している大学院生だけでなく、進学先の分野を検討している女子中・高生に対してアピールでき、裾野拡大に繋がる可能性がある。大学で働く女性研究者だけでなく、ロールモデル集の「企業で働く版」の作製を検討してはどうか。

◆キャリア・アップのための英語論文セミナーの開催は、女性研究者だけでなく男性にとっても有効であり、非常勤外国人教員の採用を念頭に今後を考えても良いのかもしれない。

◆フォローアップができる支援事業については、結果をまとめておくと良い。特に数値化できるものは数値化しておくことを勧める。例えば、英語論文セミナー参加者の論文投稿実績やサポート基盤整備として支援を受けた女性研究者の支援期間内あるいはその後の教育・研究実績などをまとめることも、事業の継続可否の判断には役立つ。

大阪府立大学　元気！ 活き生き女性研究者・公立大学モデル

平成 23 年度　事業報告書

平成 24 年 3 月発行

発　行　　大阪府立大学　女性研究者支援センター

連絡先　　〒 599-8531　大阪府堺市中区学園町 1-1
大阪府立大学中百舌鳥キャンパス　B 16 棟
ＴＥＬ・ＦＡＸ（072）254 - 9856
E-mail　w-support@ao.osakafu-u.ac.jp
URL　　http://www.opu-genki.jp

大阪府立大学「元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル」平成23年度 事業報告書